

戦慄の臓器狩り

中国における法輪功学習者を対象とした
「臓器狩り」調査報告書改訂版

2007年1月31日

カナダ勲章受章弁護士 デービッド・マタス
カナダ政府前国務省アジア太平洋担当大臣 デービッド・キルガー

本調査は下記URLからも閲覧可能

<http://organharvestinvestigation.net>

<http://investigation.go.saveinter.net>

もくじ

デービッド・キルガー 略歴	-3-
デービッド・マタス 略歴	-3-
A. 序文	-4-
B. 告発	-4-
C. 調査方法	-4-
D. 立証の難しさ	-5-
E. 立証方法	-6-
F. 立証および反証の構成要素	-6-
a) 基本的考察	-6-
1) 人権侵害	-6-
2) 医療財源	-7-
3) 軍事財源	-7-
4) 汚職	-7-
b) 臓器狩りに関する考察	-8-
5) 技術の進歩	-8-
6) 死刑を宣告された囚人の取り扱い	-8-
7) 臓器提供	-9-
8) 待機時間	-9-
9) ネットに残された負罪証拠	-9-
10) 臓器レシピエントのインタビュー	-11-
11) 金銭授受に関する考察	-11-
12) 中国の臓器移植に対する倫理観	-12-
13) 諸外国の臓器移植に対する倫理観	-12-
14) 中国の臓器移植法	-13-
15) 諸外国の臓器移植法	-13-
16) 旅行勧告	-13-
17) 医薬品	-13-
18) 諸外国の医療補助	-14-
c) 法輪功に関する考察	
19) 中国共産党が抱いた脅威	-14-
20) 迫害政策	-15-
21) 憎悪の扇動	-15-
22) 人身的な迫害	-16-
23) 大規模な逮捕	-17-
24) 死亡者数	-17-
25) 身元不明者	-17-

26) 血液および臓器検査	-18-
27) これまでの移植用臓器の提供元	-19-
28) これからの移植用臓器の提供元	-20-
29) 臓器のない死体	-21-
30) 臓器狩りについての「告白」	-21-
31) 証言	-24-
32) 補強調査	-25-
33) 中国政府からの返答	-25-
G. 更なる調査	-26-
H. 結論	-26-
I. 勧告	-26-
J. あとがき	-27-
K. 付録資料	-31-

略歴

デービッド・キルガー

1941年2月18日、カナダ・マニトバ州ウィニペグで生まれる。
マニトバ大学で経済学修士、トロント大学で法学士（LLB）を取得。
2006年1月まで26年に亘りカナダ議会議員を務め、カナダ最長の豊かな
議員経験を持つひとり。



1967年～68年	バンクーバー市検察官
1968年～69年	オタワ司法上級顧問
1971年～79年	ドーファン（アルバータ）王冠弁護士
1972年～79年	主席検察長上級代理兼アルバータ州政府法律顧問
1997年	カナダ議会議員に当選
1997年6月～2002年1月	ラテンアメリカ・アフリカ担当大臣
2002年1月～2003年12月	アジア太平洋州担当大臣等の政府要職を歴任

デービッド・マタス

1943年8月29日、カナダ・マニトバ州ウィニペグで生まれる。
オックスフォード大学で法学士号取得。法曹界のみならず政界でも法律顧問として活躍。カナダ政府から数々の賞を受賞し、2008年12月、民間に与えられる最高栄誉のカナダ勲章を受章した。
現在は、カナダ・トロントに本部を置くNGO「国際反拷問連盟」の共同委員長およびシニア法律顧問。

政治機関 経歴

1980年	国連常任理事会カナダ代表団員
1980～81年	移民事務&法規特派員
1998年	国連国際法廷会議カナダ代表団メンバー
1997年～2003年	国際人権と民主発展センターセンター長

カナダ弁護士協会 経歴

1977～78年	憲法委員会委員
1979～82年	憲法&国際法律条例主席
1996～97年	移民法条例主席
1994年～2000年	人種平等法律専門家チームメンバー
1999年	カナダ人権法審査チーム主席
1999年～2004年	連邦法廷法律支部連絡委員会委員
2004年～現在	連邦法廷法律支部連絡委員会委員長
2000年～2002年	人種平等執行委員会委員
2002年～現在	人種平等執行委員会委員長



A. 序文

「法輪功迫害真相調査連盟（C I P F G）」から、中国で法輪功学習者を対象とした「臓器狩り」が行われているという告発につき、その調査協力の依頼を受けた。C I P F Gは米国ワシントンD. C. に設立登記されたNGO団体で、カナダのオタワにも支所がある。C I P F Gは2006年5月24日付書簡を通じ、協力を依頼してきた。同書簡は本報告書に添付されている。

その依頼の内容とは、中華人民共和国の国家機関及び政府職員が法輪功学習者を対象とした「臓器狩り」に従事しており、臓器収奪の過程で法輪功学習者を殺害しているとの告発につき、その調査をするというものだった。事の重大さに鑑み、また人権尊重に関心を持つものとして、この依頼を引き受けることにした。

デービッド・マタスは、ウィニペグで開業している移民、難民、及び国際的人権問題を主な業務とする弁護士。人権問題啓蒙の著作や講演を行い、人権擁護のNGO活動などにも参加している。

デービッド・キルガーは、前国会議員。カナダ政府国務省アジア太平洋担当官を歴任し、議員となる前は主任検察官。本報告書の作成者二人の履歴は本報告に添付されている。

B. 告発

中国のいたるところで法輪功学習者が生体「臓器狩り」の犠牲者となっているという告発がある。「臓器狩り」は法輪功学習者の意思に反して行われており、広範囲且つ様々な場所において、系統の方針に従い大量に行われている。

「臓器狩り」は臓器移植の一段階である。「臓器狩り」の目的は、移植する臓器を提供することにある。移植を行う場所と「臓器狩り」の場所は必ずしも同じではなく、たいてい別の場所で行われる。ある場所で摘出された臓器は、別の場所へ運ばれて移植される。

告発によると、この「臓器狩り」は法輪功学習者の生存中に行われている。法輪功学習者は、「臓器狩り」の過程若しくはその直後殺害され、これは殺人の一形態に当たる。

そして最後に、殺害された法輪功学習者は焼却されるという。そのため「臓器狩り」の証拠となる遺体は残らない。

C. 調査方法

本件の調査は、依頼者側であるC I P F Gや法輪功団体、または他のいかなる組織と政府からも独立して、我々自らこれを行ったものである。我々は中国へ行こうとしたが果たせなかった。しかし、本調査を継続するために、実現したいと考えている。

調査を始めた時、我々は本件告発の真偽に対して如何なる観点も持たなかった。告発の内容があまりにも衝撃的で、とても信じられなかった。我々はむしろ、この告発が事実ではないことを望んでいた。もしこれが事実であるとすれば最も醜悪な悪魔の所業であり、これまでも多くの人間性の喪失を見てきたが、これは、地球にとって初めての経験となろう。我々は、あまりの恐怖によって信じ難く、尻込みをして前へ進もうとしなかった。しかし、信じ難いということから、本件告発が真実ではないという結論にはならない。

我々は、米最高裁の判事フェリックス・フラン克福ーターが1943年に、ジャン・カルスキーによるホロコーストの証言に関して、あるポーランドの外交官に語った言葉を思い出す。フラン克福ーターは次のように語った。「私はこの若者が嘘をついているとは言っていない。私の言った事は、彼が私に語ったことは到底信じられないという事だ。両者には違いがあるのだ」。

大虐殺が行われた後では、如何なる形式の犯罪があったとしても否定できない。告発された犯罪が実際にあったのかどうかは、事実を考察することで確定できる。

2006年7月7日、調査報告第1版がオタワで発表された後、我々はこの報告書を宣伝し、提案を呼び掛けるためにあちこちへ旅行した。様々な場所で、第1版には多くの関心が寄せられ、その結果我々は大量の補充資料を入手した。これらの資料は既に今回の第2版に組み入れられている。

追加した情報は、我々が最初から確信している結論を少しも揺るがせることはなく、かえって我々の信念を強化させることになった。第2版は、第1版より、より我々の結論を説得させる事例

が提供できたといえよう。

D. 立証の難しさ

これらの告発はその特殊な性質上、事実関係を立証し難いだけでなく、否認することも難しい。告発を立証する最適な証拠は目撃証言であるが、本件に関しては目撃者を確保するのは非常に難しい。臓器摘出が実際に行われていれば、現場にいるのは犯人または被害者のいずれかに違いない。傍観者は存在しないはずである。告発によれば、被害者は全員殺害され、焼却されるため、遺体を捜し出すことはできないし、ましてや遺体解剖はなおさら無理である。自らが受けた暴行を語るができる生存者もいない。また、この事件が確かに起こっているとしても、犯人が自ら人道に対する罪を認める可能性は極めて低い。それにもかかわらず、我々は十分な供述と証言を入手したわけではないが、電話調査を通じ、意外にも「犯行」を認める供述を多く得ることができた。たとえこの殺人が行われたとしても、犯行現場にはいかなる痕跡も残されていないであろう。臓器摘出が終われば、手術室はまた普通の手術室に戻るのである。

人権問題に関する中共政権の厳しい統制により、これらの告発の真偽を評価することは非常に難しくなっている。残念なことに、中共政権は、人権問題に関心を寄せている記者と活動家を抑圧している。中国には言論の自由はない。中国の内部から人権侵害事件を報道する者は大抵、投獄されている。中には国家機密漏えい罪で起訴された者もいる。こういう状況下では、NGOの人権団体が法輪功学習者からの「臓器狩り」について沈黙しているからといって、そのこと自体は我々にとって何ら参考にはならない。

赤十字国際委員会が中国の刑務所に服役している囚人を訪問するのは当局から許可されていない。囚人の人権に関心を持ついかなる機構も、許可されていない。このことにより、証拠を得られる可能性のあるルートがまた一つ絶たれている。また、中国には情報開示に関する法律はない。中共政権から臓器移植に関する基本的なデータ、例えば、臓器移植の実施件数、臓器の出所、移植の費用と用途などに関する情報を得ることはできない。

この報告書を完成させるために、我々は訪中を試みたが徒労に終わった。我々は中共大使館に入国許可について面談を求める書簡を出した。この書簡は参考資料として本報告書に添付されている。面談は実現できたが、デービッド・キルガーと面会した大使館員は、ただひたすら、これらの告発を否定しているだけで、我々の訪中の話に全く興味を示さなかった。

E. 立証方法

これらの告発が本当かどうかを判定するため、我々は多数の証拠を精査しなければならなかった。いずれの証拠も単独ではこれらの告発の真偽を確定することはできないが、これらの証拠全体によって全体像を描き出すこととなる。

我々が目を通した証拠の多くは、それ自体では、告発を完全に立証することはできない。しかし、これらの証拠が存在しなければ、告発は否定されていたかもしれない。個別の証拠はこの告発を立証できないかもしれないが、特に証拠は膨大な数に上っているため、これらの証拠一つ一つでは立証できなくとも、これらの積み重ねによって告発は信ずるに足るものとなる。我々が特定した、告発を反証する可能性のある要素で本件告発を反証できないとすれば、本件告発が真実である蓋然性は相当程度といえる。

立証には、帰納法と演繹法を用いることができる。犯罪捜査は通常、演繹的に進め、多くの小さい個々の証拠を一つの全体になるように縫い合わせるのである。我々の調査は様々な制限を受けているため、演繹的な推論は困難である。それでも、我々は中国で起きていることを推論できる幾つかの資料を入手できた。それはすなわち、調査担当者による電話調査である。

ほかに、我々は帰納法を用いて双方向からの推論を行った。本件告発が真実でないとなれば、どうすれば真実でないと知ることができるのか。また、本件告発が真実であれば、どのような事柄が本件告発と一貫性があるのか。本件告発が真実であるならば、その真実性を説明できるものは何なのか。これらのような問題に答えることは、最終的な結論を導き出すことに大変役立った。

我々は予防措置についても考えた。このような犯罪を防ぐためにどのような措置をとればよい

のか。警戒していれば、このような犯罪が起こることも少なくなるだろう。予防措置がなければ、このような犯罪の発生率が高くなる。

F. 立証及び反証の構成要素

a) 基本的考察

1) 人権侵害

中国は様々な形で人権を侵害している。これらの人権侵害は長期にわたり、深刻である。法輪功以外の人権侵害の対象は、主にチベット人、キリスト教信者、ウイグル族、民主化運動家と人権擁護者である。中国においては、独立の司法機関、身柄拘束下における弁護士との接見、人身保護令状、公開の裁判を受ける権利など、人権侵害を防止するための法の支配が明らかに機能していない。中国の憲法によると、中国は中国共産党によって支配されていると定められている。法によって支配されているのではない。

中共政権はこれまで、驚愕させるほどのおびただしい残忍な行為を自国の国民に対して行ってきた。中共政権に殺害された無辜の民の数は、ナチス・ドイツやスターリン統治下の旧ソ連で殺された人の数を合わせても、遥かに超えている[1]。大勢の女兒が殺害、遺棄または放任された。拷問は日常茶飯事である。死刑は広範囲に、恣意的に行われている。中国における死刑執行の数は、他国におけるすべての数を合わせても、それを超えている。また、宗教の信仰も抑制されている[2]。

これらの人権侵害の全体的な様相は、他の多くの要素と同様にそれだけでは本件告発を立証できない。しかし、それは反証の要素を取り除く。人権に関する中国の全体的な状態と本件告発の内容が一致しないと言うことは不可能である。本件告発の内容自体は驚くべきものだが、他の多くの国と異なり、中国のような人権記録を持つ国にとっては、それほど驚くべきことではない。

中国での人権侵害はあまりにも多く、個別の犠牲者のケースのみを指摘するのは不公平かもしれない。しかし、人権派弁護士・高智晟氏への迫害のケースは、ここで取り上げておきたい。昨年夏、「良心の囚人」である法輪功学習者たちが臓器を収奪されている件に関して調査をして欲しいと中国への入国を要請したのは高弁護士であった。オタワの中国大使館は我々に対するビザ支給を拒否し、その直後に高弁護士は拘束された。

高弁護士は胡主席およびその他の高官に、拷問や殺害を含む法輪功弾圧への公開抗議文書を3度にわたり提出している。高氏は更に、法輪功学習者から収奪した臓器が売買されている事を告発し、「生きている人からの臓器狩り事件調査」に参加すると表明した[3]。

2006年12月2日、高弁護士は政府転覆扇動罪で懲役3年、執行猶予5年の判決を下された。北京裁判所により、参政権は一年間剥奪された。これは、一般的な人権問題、特に法輪功学習者への弾圧に関心を示した人が抑圧された事例で、我々の懸念は一層強められた。

2001年、国際オリンピック委員会は2008年のオリンピック開催地を北京に決定した。オリンピック招致委員会の劉敬民副主席は、2001年4月に「オリンピックを北京で開催することによって、人権の進展に協力することになる」と語った。しかし、結果は正にその反対だった。アムネスティ・インターナショナルは2006年9月21日、次のように発表した。

「オリンピックに先立つ中国政府の人権政策に関する4つの指標について、アムネスティ・インターナショナルはその記録が極めて不十分であると判断した。死刑制度に関しては若干の改善が見られたものの、政府の人権擁護に関する取り組みは、肝心なところがむしろ悪化している」

中国の肝心な部分の人権状況が悪化しているにも関わらず、オリンピックを実施すれば、国際社会は中国に誤ったメッセージを送る事になる。中国は、人権を如何に蹂躪しようとも国際社会はそれを気にしないのだと思うに違いない。

2) 医療財源

中国が社会主義から市場経済へ移行したとき、医療制度もその一環としてシフトした。1980年から、中国政府は医療に対する予算を大幅に減らし、患者が自分で医療費を負担するようなシステムを構築した。1980年以降、政府の医療関連支出は36%から17%に減少し、一方患者の負担は20%から59%へと急上昇した[4]。世界銀行は「医療費の公共負担減は民間支出の急増で悪化した」と報告している[5]。

心臓血管医・胡衛民氏によれば、彼の勤務している病院への国家予算は、従業員一ヶ月分の給与にも満たないという。彼は「現行システムでは、病院は生き延びるために収入を探さなければならない」と述べている。中国人権報告によれば、地方の病院は「維持するための収入を得る道を作り出さなければならない」[6]。

臓器売買は病院にとっての収入源であり、経営維持のための道であり、社会に医療提供を続けるための手段となった。この資金調達必要性が、いずれ殺される囚人から臓器を奪う事を正当化し、運ばれてきたドナーが本当に死刑囚なのかをあえて問わない理由となった。

3) 軍事財源

軍隊も医療と同様、政府援助から私企業へ転換した。軍は中国において多角的ビジネスを営んでいる。そこでのビジネスは汚職ではなく、国の政策からの枝分かれとして国からも認可されており、承認済みの軍による資金調達行為である。1985年、当時主席だった鄧小平は人民解放軍に対して、予算不足を補うための資金調達を認める教書を出した。

中国において多くの移植センターと総合病院は軍事施設であり、臓器移植を受ける患者が支払う金で賄われている。軍の病院は衛生省の干渉を受けない。臓器移植で得た利益は、病院の運営に必要な資金を遥かに上回り、剰余金は軍事予算となる。

例えば、北京にある軍警総合病院の臓器移植センターはあからさまに次のように言っている。

「この臓器移植センターは、我々の主要な金儲けセンターである。2003年の総収入は16,070,000元。2004年1月から6月までの収入は13,570,000元。今年（2004年）は300,000,000元を超えるだろう」[7]。

臓器狩りへの軍の関与は民間の病院にも及んでいる。臓器のレシピエントが我々によく話していたのは、民間病院で移植手術が行われても、執刀医は軍関係者だったということだ。

一つの例を挙げよう。私たちがアジアで報告書の内容を伝えていた時、事前に2万米ドルで話をつけ、2003年に上海で腎臓移植を受けた人に出会った。彼は民間施設である第一人民医院に入院し、2週間以内に4つの腎臓が血液やその他の適合テストのために持ち込まれた。いずれも彼の抗体反応のため適合せず、それらは持ち去られた。彼は国に戻り、再び2ヶ月後、例の病院に戻ってきた。新たに4つの腎臓が適合テストの対象となり、8つ目が適合する事が分かると、移植手術は成功した。彼は人民解放軍第85病院で8日間の回復期間を過ごした。彼の手術を担当した外科医は南京軍区の譚建明医師であり、民間病院にいるときにも軍服姿であった。譚医師は組織や血液型で分類された臓器提供者のリストを持っており、そこから名前を選んでいった。医師は何度も軍服のまま病院を離れ、2~3時間後に腎臓を入れた容器を持って戻ってきた。譚医師はレシピエントに、8つ目の腎臓は処刑された囚人のものであると説明した。

軍は刑務所や囚人に接触することができる。彼らの秘密主義は徹底しており、その他政府機関の比ではない。彼らは法治の外にいる。

4) 汚職

汚職は、中国で普遍的に存在する大きな問題である。国の機構はしばしば国民の利益のためではなく、自分たちのために活動している。中国でも時々「汚職撲滅」運動が行われる事もある。

しかし、法治と民主制度が無く、秘密主義が徹底し、公的資金の管理システムが欠落している

国では、汚職撲滅運動といってもそれは真に汚職を撲滅したい訳ではなく、単なる権力抗争にしか見えない。彼らは汚職撲滅を掲げて、世間向けの宣伝をしているに過ぎない。

臓器売買は金銭に駆りたてられた問題だが、汚職とは別問題である。臓器提供を希望しないドナーからの臓器を売買することは、憎しみと貪欲を結びつける。国策としての迫害は、利潤の高い金儲けの方法と化したのである。

前最高指導者・鄧小平は「金持ちになることは栄光だ」と言った。しかし、手段によっては恥ずべき事だとは言わなかった。

利益を追求する病院は、何の保護も得られず拘禁されている人たちを利用している。囚人たちは全ての権利を剥奪され、当局から意のままに扱われてしまう。法輪功への憎悪を扇動し、法輪功学習者を非人間化することは、法輪功学習者が当局の憎悪宣伝にのせられた人々によって躊躇なく屠殺され得ることを意味している。

b) 臓器狩りについての考察

5) 技術の進歩

アルバート・アインシュタインは次のように書いている。「原子力は、人間の本能以外の全てを変革させた。この問題への対処の鍵は我々自身の胸の内にある。こんなことになるのなら、私は時計職人になっていただろう。」技術の発展は人間の本質を変えるものではない。しかし、人間が害を及ぼす能力を変えてしまう。

移植技術の進歩により、人間は衰えていく臓器に対処することができるようになったが、我々の考え方を考えることはできなかつた。あらゆる医術の進歩は人類にとって有益だと言う考え方がある。それは技術開発に当る者の意図であろう。しかし医学研究がどんなに進んだとしても、以前と変わらぬ善悪の問題が我々の前に立ちはだかる。

移植技術がいかに進歩しようとも、それによって中国の政治が進歩するという訳ではない。中国共産党のシステムに変わりはない。中国における移植技術の進歩は、残酷さ、腐敗、抑圧に利用されやすい。移植技術の進歩は、官僚たちの拝金思想やイデオロギーを表現する新たな手法を与えたのだ。

我々は、移植技術を発展させた人に対して、時計職人になるべきだったと言っているのではない。我々の言いたいことは、移植技術の進歩は良いことをするためで、悪いことは何もないなどと無邪気に喜んではいけないということだ。

一方、法輪功学習者から本人の同意なく臓器が摘出されているという告発があるが、中国における移植手術の発展がそれに利用されているとすれば、アルバート・アインシュタインの教えをあらためて実現しているということができるだろう。我々は現代技術の発展が人間性の利益に反し、有害となったのを目撃してきた。これが移植手術で起こったとしても、驚くべきではないだろう。

6) 死刑を宣告された囚人の取り扱い

2006年11月中旬、広州市南部の都市で開かれた外科医の会議で、中国衛生省次官・黄潔夫は処刑された死刑囚が臓器移植の源であると認めた。彼は次のように述べた。「一握りの交通事故犠牲者を除けば、摘出された臓器の大部分は、死刑が執行された囚人の死体からだ」。アジアニュースは次のように書いている。「闇取引は禁止されるべきである」。黄は臓器が同意を得ていない人たちからのものであり、多くの場合外国人に高く売りつけられていることを知りつつこう語っている。

中国では、政治犯および経済犯を含む大勢の犯罪に死刑が適用され、暴力的な行為がなかったとしてもそれは考慮されない。死刑執行の無いところから、法輪功学習者を殺して同意なく臓器を収奪するまでに到るには大きなステップを踏み出す必要がある。しかし、死刑に処した政治犯、経済犯から臓器を奪うところから、法輪功学習者を殺して臓器を奪うところへ到るには、そんなに難しいステップではない。

誰も殺さない国家、つまり死刑制度を持たず、または同意しない人から臓器を摘出することができない国家で、法輪功学習者が同意なく臓器を収奪されていると言っても、信じ難いだろう。しかし、

経済犯、政治犯を死刑に処し、本人の同意もなくその臓器を奪う国家で、法輪功学習者を殺し同意なく臓器を奪うと言われれば、信じるのは簡単だ。

拘禁されている法輪功学習者は中国政府によって悪意を持って貶められ、非人間的に扱われ、排除されているグループで、死刑が確定した刑事犯よりもひどい扱いを受けている。この2種類のグループを政府の発言から比較してみると、死刑囚を対象とする以前から法輪功が臓器狩りの対象であったように見える。

7) 臓器提供

中国には組織的な臓器ドナー制度がなく、その点で、臓器移植を行っているほかの国と異なる[8][9]。生体臓器の提供は、家族間だけに認められている。中国は文化的な理由から、臓器提供に抵抗があるという説明を受けた。しかし、同じ文化背景を持つ香港や台湾では、活発な臓器提供組織がある。中国において、臓器提供システムが欠落しているということは、2つの点を明示している。ひとつは中国における臓器移植のドナーは、臓器の出所ではないということだ。

中国には臓器提供を好まないという文化的背景があるため、たとえ組織的な臓器ドナー制度が存在したとしても、現在の臓器移植件数を満たすだけのドナーを探すことは難しいだろう。中国には臓器ドナーを奨励する積極的な取り組みもないため、問題は一層複雑となる。ほかの国では、ドナーが唯一の拠り所であるため、ドナーを重要視する。積極的にドナー制度を奨励することがない中国は、従ってドナーを重要視していないと結論付けることができる。中国には移植のための臓器が有り余るほど手に入るのだから、臓器ドナーを奨励することなど必要ないのだろう。

積極的に臓器提供を促進することもなく、また極端に短い待機期間や、大量の臓器移植件数を見る限り、生きているドナーがたくさん存在することが伺える。それは、当局の意のままに、臓器移植のために殺されてしまう人々である。この現実には、臓器提供を希望しない法輪功学習者から臓器が収奪されているという告発を否定することにはならない。

8) 待機期間

中国の病院のウェブサイトでは、臓器移植の待機期間が短いと宣伝している。死亡して暫く経った遺体の臓器は質が落ちるので使用不能である。これらの病院の宣伝通りだとすると、その背景には、たくさんの生きている臓器提供者がおり、随時に供給できるように用意されていることになる。

中国の臓器移植患者は、臓器の待ち時間が他の国よりはるかに短い。中国国際移植支援センターのウェブサイトには、「適合する腎臓を見つける時間はわずか1週間で、長くても1ヶ月・・・」[10]とある。さらに、「提供された臓器に何か問題が起きた場合、患者は病院側から新たな臓器を提供され、1週間以内に再手術を行うこともできる」[11]と明言している。東方臓器移植センターは2006年4月、ウェブサイトで、「適合する肝臓を見つける時間は、平均して2週間である」[12]と宣言している。また、上海長征医院のウェブサイトでは、「肝臓移植手術患者の待ち時間は、皆、平均1週間」[13]としている。

対照的に、カナダにおける腎臓移植の待ち時間は、2003年は平均32.5か月であり、ブリティッシュ・コロンビア州ではさらに長く、平均52.5か月である[14]。摘出後の腎臓の機能時間が24～48時間、肝臓が約12時間とされている[15]ならば、中国移植センターが患者に、新鮮な腎臓、肝臓を移植する際の待ち時間を保証する唯一の方法は、大量の生きている「提供者」の確保である。驚くほど短時間で完璧に適合する臓器が供給できるという宣伝の背景には、コンピューターによる臓器移植用の適合チェック・システムおよび膨大な生きた人体臓器供給源があることを意味している。

9) ネットに残された負罪証拠

2006年3月9日（当時、大規模な臓器狩りの告発が、カナダ及び国際のメディアにおいて再び浮上した）以前の中国におけるさまざまな臓器移植センターのウェブサイトから入手できた資料のなかに犯罪証拠となるものがある。もちろん、大部分がその後削除されている。故に、これらのコメントは、当時のウェブサイトの情報が保存されているアーカイブサイトに対してのみ述べる。これ

らのサイトはコメント、或いは注釈を参照していただきたい。2006年6月の最後の週に、われわれはウェブ・ブラウザによって、自らを告発するような資料がまだ驚くほど入手できた。ここでは以下4例のみにとどめる。

(1) 中国国際移植ネットワーク支援センター・ウェブサイト

(<http://en.zoukiishoku.com/>) (瀋陽市)

2006年5月17日の時点、この英語版（中国語版は明らかに3月9日以降消えた）のウェブサイトには、当センターが2003年に中国医科大学付属第一病院で創設され、「・・・特に外国の友人のため・・・ほとんどの患者は世界各国から来ている」と記述されている。サイトの書き出し文[16]では次のように宣告している「内臓（ある辞書の定義：脳、肺臓、心臓などを含めて柔らかい内臓器官）提供者は、すぐに見つかる！」同サイトの他のページ[17]には次のように述べられている「腎臓移植手術は全国で毎年少なくとも5,000例。中国政府の支持によってこのような多くの移植手術ができる。最高裁判所、そして最高裁判所の人民裁判官、警察、司法機関、衛生省と民政局は、臓器提供が政府の支持を得るように、共同で法律を制定した。これは世界でも珍しいことである」[19]

このサイトのQ&Aのページに、次のような部分がある。

「腎臓を生体から移植する前に、われわれは、ドナーの腎臓の機能を保障します・・・従って、他の国で提供されているような、死体からの臓器よりも安全です。」

「Q: すい臓は脳死者から移植されたのでしょうか」

「A: 脳死者からの臓器状態はよくないかもしれないので、われわれが提供する臓器は、脳死者からのものではありません」[19]

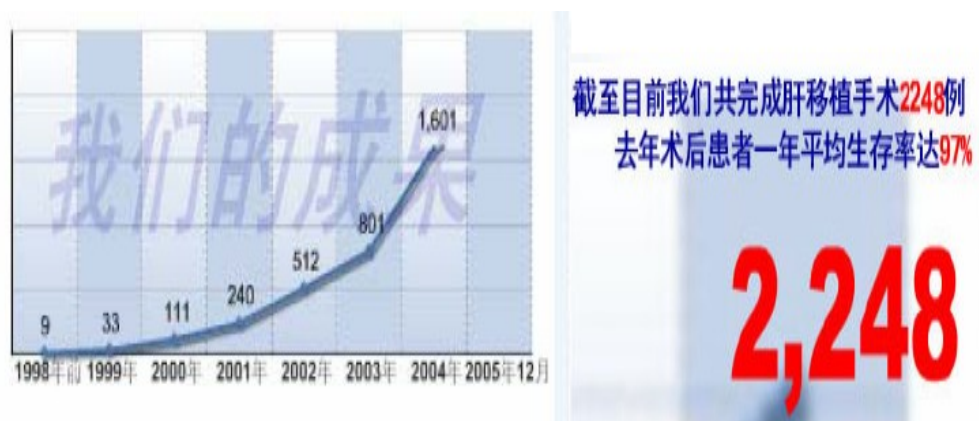
(2) 東方臓器移植センター・ウェブサイト

(<http://www.ootc.net>) (天津市)

われわれが知ったページは、4月中旬に消去された（アーカイブサイトでまだ読める）。そこには、「2005年1月から現在まで、われわれはすでに647例の肝臓移植手術をした。この中の12例は今週行われた。平均の待ち時間は、2週間」と宣言されている。同じころに削除された図表（アーカイブサイトでまだ見られる）[20]によれば、1998年（1998年では9例のみの肝臓移植手術が行われた）にスタートしてから2005年まで、このセンターはすでに2,248例の手術を行った[21]。対照的に、カナダ臓器移植登録によれば、2004年のカナダの各種の臓器移植手術を全てあわせても1,773例である。

(3) 交通大学医院肝臓移植センター・ウェブサイト

(<http://www.firsthospital.cn/hospital/index.asp>) (上海)

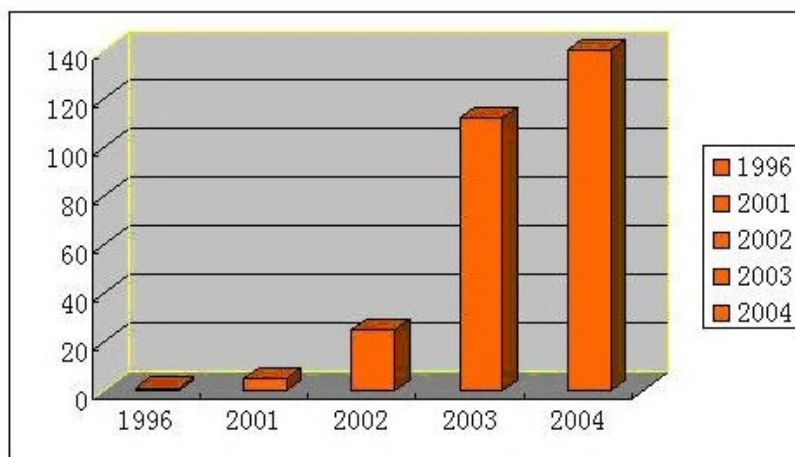


2006年4月26日の『搜狐』ウェブサイト[22]には、「(ここでの)肝臓移植手術は、2001年は7件、2002年は53件、2003年は105件、2004年は144件、2005年は147件、2006年1月は17件」と公表されている。

(4) 第二軍医大学附属長征医院臓器移植センター

(<http://www.transorgan.com/>) (上海)

2006年3月9日以降に削除されたページ(インターネットのアーカイブサイトで入手できる[23])。



我院器官移植研究所历年肝移植例数

「肝臓移植申し込み表」[24]の始めに「・・・当面、わが病院での肝臓移植のための手術費用と入院費用は、合わせておよそ20万元(約286万円)、患者がドナーの肝臓を待つ平均時間は1週間」と記述されている。

10) 臓器レシピエントのインタビュー

本報告書の第1版では、中国へ行って移植を受けたレシピエントたちのインタビューを行う時間がなかった。本報告書第2版では、これらレシピエントやその家族に対して行ったインタビューを数多く添付した。彼らの経験談は、本報告に添付されている。

レシピエントやその家族が証言したように、臓器移植はほとんど極秘に行われる。それはまるで、移植が犯罪であり、隠匿しなければならないかのようだ。可能な限り、レシピエントとその家族たちから情報を聞いた。彼らは、ドナーの身元を知らされず、ドナーやその家族からの同意書も見せてもらえない。執刀医と助手の身元を聞いても、明かされることはない。レシピエントとその家族は通常、手術が始まる寸前にそれを知らされる。手術は時に、真夜中に行われることもある。すべての過程は「何も聞かず、何も言わない」が原則である。

人々が何かを隠したがる時、それは彼らが何かを隠しているからだ結論付けるのが妥当だろう。中国政府は、臓器の出所を処刑された死刑囚だと認めており、すでに広く知られた事実なのに、なぜ中国の移植病院はそれを隠そうとするのだろうか。そのほかに、何を隠したいのだろうか。

11) 金銭授受に関する考察

臓器移植は、中国で非常に利潤の高いビジネスである。我々は臓器移植手術を受けた人が支払った金銭の追跡によって、臓器移植手術を行なった病院を特定できる。しかし、我々ができるのはここまでである。我々には病院が受領した金が誰の手に渡るのかは分からない。臓器狩りの犯罪にかかわった医師と看護婦は、そのために非常に高額を得たのだろうか? 支払われた金銭がどこへ行ったのかを知るすべが全くなかったため、この問いに答えることは不可能だった。

中国国際臓器移植支援センターのウェブサイト :

(<http://en.zoukiishoku.com/>) (瀋陽市)

2006年4月に削除される以前は、以下の価格表が、移植による利益の大きさを示していた[25]。

- 腎臓 62,000 米ドル
- 肝臓 98,000-130,000 米ドル
- 肝臓と腎臓 160,000-180,000 米ドル
- 腎臓とすい臓 150,000 米ドル
- 肺 150,000-170,000 米ドル
- 心臓 130,000-160,000 米ドル
- 角膜 30,000 米ドル

金銭の授受を伴う犯罪の告発を調査する際には、この金銭の流れを追跡するのが鉄則である。しかし、中国に関しては、その閉鎖的な政策が金銭の行方を追跡することを不可能にしている。この金銭の行方がわからないと何も立証できない。しかしそのことはもちろん、「臓器狩り」の告発に対する何らの反証にはならない。

1 2) 中国の臓器移植に対する倫理観

中国の臓器移植専門家については、法律とは別に、倫理的に彼らを拘束するものがない。ほかの国の場合、臓器移植の専門家たちは自分たちを管理する規制が自ずと働いている。移植の専門家が、もし倫理的なガイドラインを踏み外せば、国家の介入がなくとも、自ずと同分野の同僚たちから排除されてしまうだろう。

中国における移植の専門家たちは、そのような機能を有していない。移植手術となれば、国の介入がなければ何でも有りになってしまう。そこには、国家や移植社会から独立して移植を監督する第三機関が存在しない。

いわゆる「無法地帯」の中国移植社会では、職権乱用が起りやすいといえる。国家が介入し、刑事犯罪として起訴するよりは、職業的な懲罰の方が効率はいいだろう。なぜならば、刑事犯罪として起訴すれば、それにより下される罰は、職業的な懲罰よりも重くなるからだ（禁固刑の方が、職位を追われるより深刻である）。従って、起訴されることは稀である。

移植の専門家たちを規制するシステムが存在しないからといって、職権乱用が起きているという訳ではない。しかし、それが起りやすいということは確かだ。

1 3) 諸外国の臓器移植に対する倫理観

他国の移植倫理には、大きなギャップがある。中国で移植ツアーを行う多くの国々では、移植専門家たちを倫理的に規制するシステムが存在する。しかしこれらのシステムは、移植ツアーや中国の移植専門家に接触して臓器が死刑囚のものかどうか、あえて調査することはない。彼らは「見えておらず、気にしていない」ようだ。

香港医務委員会の行動倫理規範にある二つの原則は、ここで強調しておくべきだろう。一つは、もし臓器提供が自由に、自発的な意志に基づいて同意されたものか判断できない時は、専門家たちはその臓器移植に関与すべきではない。そして中国に関しては少なくとも「ほとんど全て」の臓器が囚人からのものであるため、臓器が本人の同意に基づいて摘出されたかどうかは全て疑わしいと言えるだろう。

二つめとして、他国の移植専門家たちは、中国人ドナーの状況を把握する責任がある。彼らがもし、中国人ドナーに関して何の調査もせず、あるいは簡略な対応で済ませるならば、それは倫理的な行為とは言えない。他国の専門家は、事前に調査をし、疑念を払拭してから、初めて患者に中国の臓器は同意に基づいていると紹介するべきであろう。

中国における臓器移植が発展するには、需要と供給が必要である。供給は中国の囚人が提供し、需要は大金を伴う外国にある。

我々は、中国との臓器移植に関する倫理基準を批判的に分析した資料を添付した。香港の規範

は、ルールというより例外である。世界の専門家たちは、中国での臓器移植に対する外国からの需要に関してほとんど何ら措置を講じていない。

1 4) 中国の臓器移植法

2006年7月1日まで、中国の法律は臓器の売買を認めていたが、それを禁止する法律がその日から施行された。中国では、法律の立法と実施の間に大きな隔りがある。分かりやすい例を挙げよう。中国憲法は、中国の国民が中国を高度な民主主義国家にすると規定した。しかし、天安門広場事件が示すように、中国は民主主義ではない。

我々が言えるのは、臓器移植に関する法律は、未だ実施されていない。2006年11月末、ベルギー参議員パトリック・ヴァンクルンケルスヴェン (Patrik Vankrunkelsven) は、腎臓移植を要する患者のふりをして北京にある2つの病院に電話をかけた。すると両病院とも、5万ユーロで腎臓を提供すると告げた。

先にも触れたように、2006年11月、衛生省次官・黄潔夫は処刑された死刑囚の臓器を売買することを非難し、「闇取引は禁止しなければならない」と述べている。しかしこれはすでに、7月1日に禁止されているのだ。彼のスピーチは、この法律が実施されていないことを物語っている。

1 5) 諸外国の臓器移植法

中国医療機関が行っている臓器移植手術は、他国の法律の視点から見ると違法である。しかし、中国を訪れ、臓器移植を受けて自国に戻る国民に対しては法律で裁けない。臓器移植の法律は、自国以外に適用できないからである。

世界では、国や地域に関係なく適用可能な法律が存在している。例えば、児童を対象とした買春ツアーの旅行者は、罪を犯した国で起訴される上に、自国に戻ってからも法律の裁きを受けなければならない。しかし、このような法律は移植旅行者に対して適用されておらず、彼らは移植される臓器が同意のもとに提供されたのかどうかを確認することがない。

勿論、立法しようと努力している人々がいる。例えば、ベルギー参議員パトリック・ヴァンクルンケルスヴェンが提案した新法案は、囚人や行方不明者の臓器を買うことを目的とした旅行者を、法的に裁くことができる刑事法である。しかし、これはまだ雛形の段階で、立法までには時間がかかる。

1 6) 旅行勧告

多くの国は国民に旅行勧告を発表し、渡航先の国の危険性を警告する。勧告内容は大体政治的な紛争が多く、或いは天気の崩れなどを警告することもある。しかし、今のところ中国への臓器移植旅行に対して警告を出している国は一つもない。中国においては、国際移植学会が言う「ほとんど全て」の臓器が囚人からのものである。

もし、臓器が同意していない囚人からのものだと知ったならば、多くのレシピエントとなる患者が中国へ渡航することを躊躇するよう我々は望んでいる。しかし、現在では政府や医療機関を通して、組織的にレシピエントへ情報を提供するシステムが整っていない。

例えば、カナダ外務省のウェブサイトにある中国旅行の勧告には、健康の項目を含む2,600文字の幅広い情報が掲載されているが、臓器移植に関する事は一言も触れられていない。

1 7) 医薬品

臓器移植手術は、免疫抑制剤に依存している。中国は、海外の有名な製薬会社からこれらの薬品を輸入している。従来 of 移植手術では、ドナーとレシピエントの組織と血液型が適合する必要がある。しかし、免疫抑制剤の開発に伴って、二つの組織が適合しなくても移植できるようになった。高用量の免疫抑制剤を投与すれば、組織が適合していないドナーからレシピエントへの移植が可能となる。免疫抑制剤への過度な依存を避けるために、組織が適合していることが望ましいが、

必要不可欠というわけではない。

海外の製薬会社は、中国の移植システムに関して他の人々と同じような態度をとっている。つまり、何の疑問も抱いていないということだ。彼らは、会社の製品が同意なく提供された臓器のレシピエントに使われているかもしれないという認識がない。

多くの国では輸出管理法があり、ある特定の商品に対して輸出を禁じ、または政府の許可を得なければ輸出できないようになっている。しかし我々の知る限り、中国で臓器移植を受けた患者に使用される免疫抑制剤に関して、輸出を禁じている国はない。

例えば、カナダの輸出入許可法は次のように規定している。

“輸出管理リスト及び地域管理リストにある品目は、本法に基づき政府の輸出許可を得なければ輸出できない。” [26]

しかし、移植に使われる免疫抑制剤については、地域管理リストの中国の項目に含まれていない。

1 8) 諸外国の医療補助

多くの国では、海外で発生した医療費も国内と同じように健康保険が適用される。我々の知る限り、中国で臓器移植を受けた患者に対して保険料の支払いを禁じている国はない。移植を受けた患者は、自国に戻った後もアフター・ケアが必要である。彼らは、引き続き免疫抑制剤の処方が必要である。国が健康保険を援助する場合、このようなアフター・ケアの医療費も援助される場合が多い。つまり、政府はレシピエントに提供された臓器の出所に関して、無関心なのである。臓器が、同意していない中国の囚人からのもので、移植のために殺されたのかもしれないという事実は、アフター・ケアを受ける患者に医療費を支払う政府にとって興味のないことである。

c) 法輪功についての考察

1 9) 中国共産党が抱いた脅威

中国の刑務所に監禁されている良心の囚人の多くは、法輪功学習者である。中国の刑務所で拷問を受けている犠牲者の3分の2は法輪功であると推定される。中国政府は法輪功に対して極端な憎悪の言葉を使うが、同政府は他の被害者たちに対して比較的抑えた批判の言葉を使い、その差は対照的だ。毎年行われる法輪功学習者たちの恣意的な逮捕や失踪の数は、そのほかの被害者の数に比べて膨大だ。

なぜ中国政府はひとつの団体に対して激しく残虐に弾圧するのだろうか？一般の中国人が法輪功を避けるのは、法輪功が「カルト宗教」であると信じているからだ。

しかし、法輪功にはカルト宗教の性質はない。会員制でもなく、事務所も階級もない。

モントリオール大学東アジア研究センターの主任で中国現代史研究家のデービット・オーンビー博士 (David Ownby) は、6年前にカナダ国際問題研究所に寄せた論文の中で、法輪功について言及している。彼は、カルト宗教とは異なり、法輪功には強制的なお布施や社会から断絶したコミュニケーションなども存在しないと記述している。

“法輪功のメンバーは、社会の一員である。ほとんどのメンバーは、核家族を持ち、一緒に暮らしている。職場で働き、子供を学校へ送る。” [27]

法輪功をやめても、何の懲罰もない。なぜなら、やめていくといってもやめる実体がないからだ。法輪功という気功は習うのも自由であり、少なく練習しても、多く練習しても、個人の事情に合わせて行えばよい。習い始めるのも、やめるのも自由だ。彼らはグループで、または個人で気功を行う。

法輪功を伝授し、「転法輪」という本で法輪功学習者たちを啓発した李洪志氏は、学習者たちから個人崇拝されているわけではなく、また献金なども受け取っていない。彼はあまり人と接触せず、学習者たちと会うことも稀である。法輪功学習者たちへのアドバイスは、会議の講演や、書籍の形で一般に公開されている。

中国政府が法輪功に「邪教」というレッテルを貼ることは迫害の一環であり、弾圧のため、更

には誹謗中傷、憎しみの扇動、非人間化、排除などを行うための言い訳である。しかし、このレッテルは、なぜ弾圧が起ったのかを説明するものではない。「邪教」というレッテルは、迫害するために捏造された道具に過ぎないが、迫害の理由ではない。原因は、他にある。

1949年、中国共産党が政権を握ってから、全体主義を進めるために、気功やその他のエクササイズは鎮圧された。90年代になると、警察国家もようやく政策を緩め、法輪功を含むさまざまな気功が流行り出した。

法輪功は儒教、仏教および道教の要素が取り入れられている。本質的にこの気功は心身両面の健康を改善するための、煉功を通じて瞑想する方法を教えている。その活動は政治的なものではなく、法輪功学習者は、人種、国家、文化の枠を越えた真実、寛容そして慈悲を増進しようと努力している。暴力は法輪功学習者が忌避するものである。

李氏は、政府の中国気功科学研究会に法輪功を登録した。1998年初め頃、既に政府は法輪功を警戒していたがまだ弾圧が始まる前に、李氏は渡米した。しかし、法輪功の人気は高まり続けた。江沢民政府は、1999年に推定7千万人の法輪功学習者がいたと発表した。その同じ年、中国共産党員は6千万人だったといわれている。

1999年7月に弾圧されるまでは、多くの都市部で、法輪功学習者は定期的に集まり一緒に煉功していた。北京だけで2,000の煉功場があった。

中国共産党は1999年4月、「青少年科技博覧」という雑誌で、法輪功は迷信であり、法輪功学習者は重病にかかっても普通の医療を拒むので、健康を損なうものであるという記事を発表した。この記事を読んだ大勢の法輪功学習者は、天津にある雑誌の編集部の外に集まり、抗議を行った。警察官がそれらの法輪功学習者を逮捕、殴打した。

この事件がきっかけで、1999年4月25日、10,000人から15,000人の中国人は、早朝から深夜まで、紫禁城のそばにある中共首脳の中枢機関である中南海の外に集まった。陳情は静かに行われ、標語もなかった[28]。江沢民は、この陳情者の存在に驚いた。彼の目には、共産党のイデオロギーを揺るがすものと映ったのだ。

2 0) 迫害政策

法輪功学習者を対象とした「臓器狩り」が中国で広く発生しているならば、そこにはそうした内容の政府の政策や方針があるはずだと考えるであろう。しかし、中国では政策決定過程が秘匿されているため、具体的な政策が存在しているかどうかを知ることができない。しかし、我々は法輪功に対する迫害が政策として実施されていることを知っている。本報告書に添付されているとおり、中国政府と中共政権が発した、身体の迫害を含めて、法輪功の迫害を命ずる非常に強力な政策発表明文が存在する。

中国政府は、法輪功を弾圧するための「特務機関」を設立し、中国全土に配備した。この機関は1999年6月10日に設立されたため、「610弁公室」と呼ばれている。610弁公室は、各省、市、県、大学、政府機関および国有企業に設置されている。

北京政府計画弁公室の李百根副主任（当時）の話によると、1999年「610弁公室」の責任者3人は3,000人の政府幹部を人民大会堂に召集し、法輪功に対する弾圧について議論したという。しかし、弾圧活動は思うほど順調ではなかった。北京の周辺には続々と陳情者が詰めかけた。610弁公室の責任者である李嵐清は口頭で、法輪功に対する政府の新政策を伝えた。つまり「その名誉を棄損し、その経済力を破綻させ、その肉体を消滅せよ」というものだった。その会議以降、警官によって迫害され死亡した法輪功学習者は、自殺として片付けられている。

2 1) 憎悪の煽動

中国の法輪功学習者は、人間としての言論と行動の権利を完全に剥奪されている。当局の政策上の方針は、大衆の煽動と合わせて、迫害を正当化し、その迫害の賛同者を募り、反対の声を未然に圧殺することにある。このような特定団体に向けられた批判は、当団体に対する人権弾圧の予兆であると同時にそれを裏付けるものとなっている。

国際人権組織「アムネスティ・インターナショナル」の情報によれば、中共政権は信仰の放棄

を拒否する法輪功学習者に対する暴力による制裁、法輪功学習者全員に信仰の自由を制限し、信仰を放棄させるための「強制洗脳」、そして国民が法輪功を憎むように煽動するためのメディアキャンペーンという3つの策略で法輪功を崩壊させようとしている[29]。

1999年から、すべての地方政府には、北京の命令を徹底的に実行させるために、無制限の自由裁量が与えられた。それ以降、法輪功学習者が焼身自殺や、殺人、家族への危害行為、医療の拒絶を行うと国民に信じ込ませるために、多くの捏造が行われた。時が経つにつれてこの詐欺宣伝は一定の効果を顕わし、多くの中国人は、明らかに中共当局の見方を受け入れた。1999年後半になって、初めて全人代が法輪功に対する禁止法を可決し、それまでの法輪功への迫害行為すべてが遡及的に合法化された。

憎悪の煽動は、世界各地に存在しているが、中国では最も激しく行われている。中国の官僚は、どの国に派遣されてもこの煽動活動を重要な職務として遂行する。カナダのアルベルタ州エドモントン市では、カルガリーの中国領事2名が法輪功に対する憎しみを故意に煽動したとして、現地の警察が彼らを起訴するよう勧告している。警察の報告書は、本報告書に添付している。[30]

憎しみを煽動するだけでは迫害が行われているとは言い切れないが、こうした煽動は、あらゆる最悪の人権侵害を促進する。このような忌まわしいプロパガンダがなければ、我々が集めた一連の告発が真実であるとは考えないであろう。実際、このようなプロパガンダが存在しているからこそ、中国において、人々が法輪功に対するそうした行為—「臓器狩り」やその過程で彼らを殺害すること—に係わっている可能性が真実味を帯びてくるのである。

2 2) 人身的な迫害

前国家主席の江沢民が「610弁公室」[31]に出した指令は法輪功の「根絶」であった[32]。迫害を通して(法輪功を)根絶するこの企みについては、添付資料にて詳細を記述した。

拷問に関する最近の報告では、国連特別調査官は、以下のように指摘している[33]。

「2000年以来、特別調査官とその前任者は、中共当局に拷問案件314件を報告した。その案件の関係者は、1,160人に達する」さらに「その数字のほかにも、さらに注意すべきなのは、2003年に寄せられた案件(E/CN.4/2003/68/Add.1 para.301)で、法輪功学習者数千人が受けた虐待と拷問とが記述されている。」

そのほかにも、報告書では、拷問と虐待の被害者の66%は法輪功学習者であると指摘。その他の被害者は、ウイグル族人が11%、風俗産業従事者が8%、チベット人が6%、人権活動家が5%、反体制者が2%そしてその他の人(エイズ感染者と宗教団体のメンバー)が2%を占めている。

2年後(2001年8月5日)[34]、ワシントン・ポスト紙北京支局は、「610弁公室」とその他の中共機関による法輪功への迫害の深刻さを暴露する以下の記事を掲載した。

「北京西部のある警察署で、欧陽氏は裸のまま5時間の拷問を受けた。彼の話によると、『もし私の答えが(彼らの要求と)異なっていれば、つまり、イエスと言わなければ、警官らは電撃棒で私を電撃した』。その後欧陽氏は北京西部の近郊地域にある強制労働収容所に拘禁された。そこで、警官らは彼に壁に面して直立不動の姿勢をとることを命じ、すこしでも体が動くと、電撃された。体力が限界に達し、倒れた時も、電撃された」。

「後に、欧陽氏は拘禁されている法輪功学習者グループの面前で、ビデオカメラに向け、自分の信仰を放棄すると再度声明した。それで欧陽氏の身柄は、刑務所から『洗脳センター』に移された。20日間続けて、毎日16時間以上、法輪功を批判し続けた結果、彼は『卒業』した。欧陽氏は『当時でも、今でも、私が受けた圧力は信じ難いものである。過去2年間に私は人間の最も醜いことを目の当たりにした。我々人間は本当に地球上で最も罪深い動物だ』と語った」。

オーンビー博士は、「人権団体が一致して、中共政権による法輪功への残酷な迫害を譴責している。カナダ政府を含めて、世界でも多くの政府がすでに関心を示し始めている」と指摘、アムネスティ・インターナショナルの2000年度報告書を引用して、1999年7月に弾圧が始まって以来、すでに法輪功学習者77人が、拘禁期間中に死亡し、あるいは釈放された直後に死亡したと説明した。

2 3) 大規模な逮捕

法輪功学習者に対する大規模な逮捕は、人身に対する迫害であり、臓器狩りとの関連性を考えるならば、他と区分して考慮しなければならない。希望しない人たちから臓器を収奪するには、始めに彼らを拘束する必要があるからだ。

1999年の夏以降、何千人もの法輪功学習者が刑務所や強制労働収容所へ送られた。例えば2005年の米務省人権報告書[35]によると、中国では警察当局が数百ヶ所の拘留施設を管理するほか、30万人を収容できる340ヶ所の強制労働収容所を保有している。また同報告書は、監禁されている間に死亡した法輪功学習者の人数が、推定数百人から数千人に上ると伝えている。

数十万人の法輪功学習者が北京に上京して直訴を試み、横断幕やスローガンを掲げ、毎日のように団体の合法性を請願した。人々は、毎日やって来た。オーストラリア在住の作家・ジェニファー曾氏は当時北京に住んでいたが、彼女が独自に入手した中共の機密資料によると、2001年4月末までに逮捕された法輪功学習者は約83万人に達していたという。逮捕された後、自らの身元を明かすことを拒否した人たちについては、正確な情報が得られない。釈放された法輪功学習者とのインタビューから、これら身元不明の法輪功学習者は多数存在すると思われる。しかし、その数がどれぐらいに上るのかは、定かではない。

秘密の強制労働収容所に法輪功学習者が大量に拘禁されていても、それ自体だけでは（臓器狩りの）告発を立証できない。しかし逆から見ると、もしそのような大量な被収容者が存在しなければ、告発は疑わしいものとなる。膨大な数の人々が国家の恣意と権力の標的になった場合、どのような形で自衛の手段が全く無ければ、そうした人々が潜在的な「臓器狩り」の対象となる。

2 4) 死亡者数

2006年12月22日までに、3,006人の法輪功学習者が迫害により死亡した。我々は、これら確認された被害者を6種類に分類した。

第一のグループは、当局からの度重なる嫌がらせや圧力によるストレスで死亡した人たち。二番目は、監禁中に虐待され、家族の下に釈放されたが死亡するケース。三番目のグループは、監禁中に拷問を受けて死亡し、その後遺体が火葬のために家族の下へ返されるケース。四番目は、監禁中に拷問で死亡しすぐに火葬されるが、家族は遺体を見ることができる。五番目のグループは、被害者が監禁中に死亡し、家族に知らされぬまま、遺体が火葬されてしまうケース。六番目のグループは、被害者が監禁中に死亡するが、親族が遺体と面会できたかどうかの情報がないケースだ。

我々が把握しているのは、臓器を摘出された可能性がある大多数の法輪功学習者は、彼らの遺族に当人の死亡が知らされていない人たちである。死亡が知らされない理由は二つある。ひとつは、学習者本人が当局に身元を明かすことを拒否した。もう一つとして、当局は学習者の身元を知っているが、監禁していることを家族に知らせず、或いは生前に学習者が家族と連絡を取ることを禁じていた。

しかし、身元が分かっている五番目と六番目のグループも、臓器狩りの被害者である可能性を否定できない。このグループは、300人に上る。五番目のグループに関しては特に可能性が高い。彼らの名前は、本報告に添付している。

大勢の法輪功学習者が当局の拷問によって殺害されたことは、我々が調査している本件告発を立証するものである。法輪功学習者の命が軽視されている時、ある特定の死因のみを排除する理由はない。つまり、もし中国政府が大勢の法輪功学習者を拷問という形で殺害することに抵抗がないならば、臓器狩りを通じて同様に殺害するだろうと信じてもおかしくはない。

2 5) 身元不明者

不幸にして標的となった法輪功に対する抑圧の方法は、ある意味で、中共当局の常套手段ではあるが、法輪功の拘禁には独特な特徴がある。中国全土から天安門広場に嘆願や抗議をしに来た法輪功学習者が逮捕されたとき、身元を明かした場合は居住地に送還され、その家族も連帯責任を問われ巻き添えになり、しかもその法輪功学習者に信仰を放棄するよう説得することを強要される。

法輪功学習者の会社の上司、同僚、居住地の自治体の幹部も、その法輪功学習者が北京で嘆願や抗議を行ったことで、責任を問われ、懲罰を受ける。

そのため、法輪功学習者は自分の家族を守り、郷土での「村八分」を避けるために、その多くが、自らの身元を明かすことを硬く拒絶した。その結果、中共当局は拘禁された法輪功学習者多数の身元確認ができず、法輪功学習者の知り合いたちも彼らの行方が分からない。

身元を明かそうとしないのは、親戚や知人の身を守るためであるが、逆効果になりやすい。家族がその消息を知らない人は、そうでない人たちと比べ、一層犠牲者になりやすい。このような人たちは、中国の基準においても、明らかに無防備な人たちである。

これら身元不明者たちは、特別過酷な虐待を受ける。彼らは事情も知らされず、中国各地の刑務所をたらい回しに移送される。

これら身元不明者が、法輪功学習者に対する「臓器狩り」の対象なのであるか。明らかに、この人たちの存在自体だけでは、そうであるという断定はできない。しかし、仮に法輪功学習者に対する臓器狩りの告発が真実であれば、この人たちの存在により、摘出された臓器の出所について直ちにこれを説明することができる。この人たちはそのまま蒸発する可能性があり、しかも「塙の外の人たち」は、その事実を知る術もない。

著者は、本報告書作成のための調査の段階で、何度もぞっとすることがあった。最も不快だったのは、これほど大勢の身元不明者が監獄、収容所、強制労働収容所に監禁されていることだった。釈放された学習者が次々と、このグループの存在を教えてくれた。一部の証言は、本報告書に添付している。

これらの学習者によると、彼らは監禁中に、大勢の身元不明者に出会ったという。我々はたくさんの方の釈放された法輪功学習者に会っているが、監禁中に終始身元の開示を拒否し、釈放された人には会ったことがない。この人数は膨大であるにも関わらず、釈放されたケースを聞いたことがない。これら大勢の人々の身に何が起き、そして彼らは今どこにいるのか[36]。

強制的な失踪と、身元不明は異なっている。なぜならば、強制的な失踪は、当局が関与していると家族が知っているからだ。身元不明の場合、家族は当人の消息を掴めない。強制的な失踪の場合、家族や目撃者は、被害者が当局によって拘束されていることをある程度分かっている。当局は、被害者を拘束したことを否認するか、または彼の居所を隠したりする。

身元不明者の場合、家族は当人が消息を絶ったことしか知らないため、当局に拘束されたかどうかなど知るよしもない。失踪した人が当局から残酷な迫害を受けているグループの信奉者だった場合、家族は政府に聞くことを躊躇してしまうだろう。

一方、失踪者の搜索願を当局に届ける家族もいる。これら家族のケースは、本報告書に別紙として添付されている。

26) 血液および臓器検査

拘禁されている法輪功学習者は系統的な血液検査と臓器検査をされる。学習者と一緒に拘留されている他の囚人は（法輪功学習者ではないため）検査されていない。このような区別された検査が強制労働収容所、刑務所、拘置所で行われている。我々はこの件に関する多くの関連証言を耳にしており、この区別された検査は確実にあったと言えるだろう。学習者は強制労働収容所、刑務所、あるいは拘置所などどこに拘禁されていてもこの検査を受けさせられる。法輪功学習者に対してのみ行われた系統的な血液検査と臓器検査について取材した証拠陳述は、関係書類として本報告書に添付されている。

学習者本人に検査理由は告げられない。なぜならこの検査は健康のために行われるものではないからだ。理由として第一に、もしたの衛生予防の為であれば系統的な血液検査と臓器検査を行う必要はないからであり、さらに言えば、拘禁されている法輪功学習者の健康状況は他の多くの方面において軽視されているにもかかわらず、中国当局が学習者に対し血液検査と臓器検査を衛生予防として行うことはあり得ないからである。

血液検査は臓器移植をする上で必要不可欠である。提供者の血液が移植を受ける患者に適合していれば、患者の血液中の抗体が提供者の臓器を拒絶しないからだ。

勿論、血液検査だけでは、法輪功学習者たちからの臓器狩りが発生していることを立証すること

はできない。しかし、その逆のことは言える。つまり、血液検査の事実がなければ、法輪功学習者の臓器が摘出されているとする告発は反証される。収容所内の法輪功学習者に対して広範囲に行われた血液検査は、本件告発に対する当該反証の道を絶つのである。

27) これまでの移植用臓器の提供元

中国の臓器移植件数は膨大である。中国日報によると2005年の時点では20,000件に達しており、臓器移植関連の手術数は米国に次いで世界第二位を誇っている。膨大な手術数に加え、待機期間が短いという事は常に多くの臓器提供者が存在することを意味している。この大量の提供者たちはどこにいるのか、また彼らはどのような人たちなのだろうか？

臓器移植の数は、確認できるドナーの数をはるかに上回っている。我々は一部の臓器が死刑判決を受けた死刑囚からのものであることを確認しており、またわずかではあるが提供を希望するドナー患者の家族および脳死した人々からの場合もある。しかしこれらドナーの数は、移植手術件数とかなりのギャップがある。死刑囚とドナー患者の数を合わせても、総数には全く及ばないのだ。

死刑囚の人数と死刑執行件数は、公開されていない。私たちは、中国政府からの情報をもとにアムネスティ・インターナショナルが提供した統計を参考としている。これらの数字は、他国における死刑執行件数を合計してもそれを上回るが、臓器移植件数には遥かに及ばない。

移植された臓器のうち少なくとも98%は、家族以外の提供者からのものである(注10)。例えば中国国内で1971年～2001年の間に行われた腎臓移植手術40,393件のうち、患者の家族から提供されたケースは227例で、全体の0.6%に過ぎない[37]。

中国では何年も前から、死刑囚の臓器を利用した移植手術が行われていたが、中国政府は近年、初めてこのことを認めた[38][39]。今や中共政権にとって「国家の敵」の臓器を売買することを阻止するような障壁は一切ないのだ。

アムネスティ・インターナショナルの報告[40]によると、1995年～1999年の間に処刑された死刑囚の数は、年間平均で1,680人であり、2000年～2005年は1,616人だった。これらの数字は変動的ではあるが、全体的な平均値は、法輪功が弾圧される前も後も、あまり変わらない。従って、法輪功の迫害が始まってから、中国で激増した移植手術の件数は、処刑された死刑囚だけでは説明がつかない。

公表された報告によると、1999年までに、中国では約30,000件[41]の臓器移植が行われ、1994年～1999年の6年間で約18,500件[42]の臓器移植が行われたという。中国臓器移植協会副会長の石秉義教授は、最初の臓器移植が行われてから2005年までに、合計で約90,000件[43]の臓器移植が行われたと述べた。それにより法輪功の迫害が始まった1999年から後の2000年～2005年の6年間に、約60,000件の臓器移植が行われたことが明らかとなった。

一方、家族または脳死患者などの出所の確認できる臓器移植件数はわずかである。2005年では親族からの生体腎臓移植は、全国の臓器移植件数のうちわずか0.5%である[44]。また、2006年3月までのすべての臓器移植の中で、脳死患者からの臓器提供はほんの9件しかない[45]。ここ数年間でも、脳死患者による臓器提供の増加を示すものはない。

1994年～1999年の6年間で、出所が明らかな臓器による臓器移植は18,500件であるが、おそらく2000年～2005年の6年間で、同等な数の臓器移植が行われたと推測できよう。それならば2000年～2005年の6年間で、実際に行われた60,000件の臓器移植のうち、41,500件の臓器の出所は説明がつかないのである。

移植手術が行われた41,500の臓器はどこから来たのか。法輪功学習者からの臓器収奪という告発が、その答えである。

これらの数字のギャップから、法輪功学習者に対する臓器狩りという告発が真実であるとはいえないが、逆に移植されたすべての臓器の出所が十分に説明されれば、その告発は反証される。例えばすべての臓器についての出所が自主的な臓器提供者または処刑された死刑囚によるものであると追跡ができれば、告発は反証される。しかしこのような追跡はほぼ不可能で、中国で処刑された死刑囚の推定人数は、しばしば公表される数字よりも多いのである。処刑された死刑囚についての政府側の統計報告がないため、合計数字は推測したものにすぎない。

処刑された死刑囚の人数を推定する方法の一つは、臓器移植手術件数を見ることである。少なく

とも臓器の一部は処刑された死刑囚からのもので、家族からの臓器提供はほとんどないことが分かっている。一部の専門家は、臓器移植手術件数から、処刑された死刑囚が増加したと推定している。しかし、同推論は説得力に欠ける。臓器移植に利用する臓器が処刑された死刑囚からのものだけでなければ、臓器移植手術件数から処刑された死刑囚の人数を推測することはできない。

死刑囚の臓器を使った移植の効率が向上したとしても、移植件数の増加をすべて説明することはできないだろう。中国における移植件数の増加は、法輪功に対する迫害と移植技術の発達に関係している。しかし、移植件数の増加は、必ずしも移植技術の発達と同時進行しているわけではない。中国の腎臓移植技術は、法輪功に対する迫害が始まるよりもかなり前から十分に発達していたのだ。しかし法輪功への迫害が始まってから、腎臓移植件数は倍以上激増した。1998年には3,596例であった腎臓移植件数が、2005年には10,000例近くにまで増加している。

第二に、中国には整った臓器適合システムがないことが挙げられる。中国全土に広がる臓器ドナー・ネットワークが存在しないため、[46]医師たちは「腎臓を利用するだけではドナーの他の臓器がすべて無駄になってしまう」と嘆いている [47]。

各病院は、個別の臓器供給源と順番待ちリストを管理している。患者は病院から病院へ、臓器が手に入る病院を探さなければならない。臓器がない病院は、臓器のある別の病院を患者に紹介する [48]。この非組織的な方法が、臓器提供の効率を低下させているのだ。

いくつかの臓器を一度に死刑囚から摘出していることが、臓器移植件数急増の理由ではない三つ目の理由は、他国の事例に基づいている。移植技術が向上したからといって、移植手術件数が急激に増えた国はどこにもない。カナダ、米国、日本の手術統計データは本報告書に添付されている。

中国における臓器移植件数の急増と並行して、法輪功学習者に対する迫害も急増している。二つの事実が並行している事だけを根拠に告発を立証することはできないが、しかしこれは告発の内容と一致している。もしこの両事実が並行していなければ、告発は脆弱なものとなるだろう。

28) これからの移植用臓器の提供元

臓器移植は、中国で急速に成長した事業である。1999年以前は中国本土に22ヶ所しかなかった肝臓移植センターが [49]、2006年4月中旬には500ヶ所にまで急増し [50]、腎臓移植機構も2001年の106ヶ所 [51] から2005年の368ヶ所 [52] に増加した。

巨額の利潤が得られる臓器移植事業は国内で広がりを見せ、各地に次々と臓器移植施設が建設された。2002年10月に北京大学第三病院肝臓移植センター [53]、2002年11月には北京臓器移植センター [54]、2002年4月には中国人民解放軍第309病院臓器移植センター [55]、2004年5月には中国人民解放軍臓器移植研究所（上海長征病院臓器移植センター） [56]、2001年には上海市臓器移植臨床医学センター [57] が設置された。特に天津市が融資し、2002年に建てられた公共医療機構天津東方臓器移植センター [58] は地上14階、地下2階、300あまりのベッド数を誇る、アジア最大の臓器移植センターとなっている。

これらの臓器移植施設の建設は、臓器移植への需要の急増と同時に、この事業が将来を見据えた長期的な計画であることを物語っている。

中国では、ほとんどの臓器が囚人からきていることに間違いはないが、私たちは次のことに関して疑問を持っている。即ち、これらの犯罪者は皆死刑囚なのか、それとも懲役刑を受けた、または懲役刑を受けていないが監禁されている法輪功学習者たちなのか？しかし、臓器の出所が囚人であるということは、議論の余地がないだろう。これらの巨大な臓器移植センターを建設するという事は、つまりこれからも囚人の臓器を収奪していくという明らかなサインだ。

中国政府は、法律上でも政府声明でも、同意のない死刑囚からの臓器提供は禁止すると発表した。本報告で指摘しているように、臓器提供に関する死刑囚の同意など意味がないことは明らかだ。

これらの臓器移植施設の建設は、すでに移植された臓器が誰のものかという疑問だけでなく、今後移植される臓器の出所についても疑問を抱かざるを得ない。これらの臓器はいったい誰のものなのか？もし中国政府が真摯に臓器移植法を実施するならば、死刑囚からの臓器摘出はなくなり、おそらく手術例は減少するだろう。しかし、これら多くの臓器移植施設を建てた以上、現在および近い将来にも、中共当局は生きている臓器提供者を確保していくと思われる。

これらのドナーは何者だろうか？監禁されている数多くの法輪功学習者がその答えであろう。

29) 臓器のない死体

監禁期間中に死亡した法輪功学習者の家族は、死亡者の遺体に外科手術の跡があり、死亡者の臓器がなくなっていたと証言しているが、中共当局は手術跡について合理的な説明をしていない。臓器のない遺体の証拠は、本報告書の付録に収録されている。

第1版の報告書の付録12には、臓器を取り出すために切開し、縫合した跡が残る遺体の写真がある。この写真に関して、我々は検死が行われたようだというコメントを聞いた。

確かに、死因を調べる為に遺体を解剖して臓器が取り出されたのかも知れない。中国以外の国では、その理由が通るだろう。同様に、中国以外の国で血液検査を行うとしたら、それは健康診断のためである。しかし、瀕死状態になるまで拷問を受けた法輪功学習者に、血液検査をするのは彼らの健康のためであるとか、拷問によって死んだ学習者の死因を特定するために検死するなどということは、そもそも矛盾している。

写真に写っている遺体は王斌さんである。暴行と殴打で王斌さんの頸動脈は破裂し、扁桃腺がひどく損傷し、リンパ節が破損、しかも数ヶ所を骨折している。手の甲と鼻の内側にタバコの火で焼かれた跡があり、全身に内出血の跡があった。彼は瀕死状態に陥るまで拷問を受け、ついに失神し、2000年10月4日夜に絶命した。

遺体解剖は、死亡原因を確定するために行われ、死因が不明であることが前提条件だが、彼の死因は、臓器が取り出される前にすでに分かっていたはずだ。拷問で死亡した王斌さんの遺体解剖は、死因確定のために行ったという話は矛盾が生じる。王斌さんが臓器を摘出される前、家族に同意を求める要求があったという話はなく、また王斌さんの家族は遺体解剖後の結果報告を受けていない。そのため、遺体に縫合跡があるのは検死があったからだという説明は不十分である。

30) 臓器狩りについての「告白」

独立調査団らは数ヶ所の病院へ電話をかけ、移植担当医に移植について質問をした。電話調査員はレシピエントの、或いは家族に患者がいる振りをして、ウェブサイトに乗っている電話番号へ電話をかけた。これらの電話会話で、数々の病院が、法輪功学習者を対象とした臓器狩りを口頭で認めたのである。本報告書の添付には、第1版よりも更に多くの電話記録が収録されている。

電話調査員は通常、病院の移植係に繋ぐように伝える。最初に臓器移植の大体の状況を問い合わせるのだが、電話に出た病院職員はたいてい積極的に臓器移植の担当医に電話を繋ぐ。もし担当医がいなければ、調査員は再び電話をかける。

時々、病院や医師に電話をかけると、刑務所や裁判所を紹介されることがある。なぜならこれらの機関が、収奪した臓器の分配拠点だからである。裁判所や刑務所に、臓器移植について問い合わせるのは奇妙だ。死刑囚の臓器狩りから始まって、その後他の種類の囚人から臓器を奪うようになって、分配システムは変わらなかったようだ。

電話調査員の一人で、M氏という女性は、2006年3月、山西省公安局に電話をかけた。電話に出た人は、「刑務所では、若くて且つ健康な囚人が臓器狩りの対象として選ばれる。もし選ばれた囚人が畏を見破り、移植に必要な血液サンプルを提供しない場合、幹部は誠実を装い続ける一方、看守職員は強制的に採血する」と告げた。

2006年3月18日、或いは19日に、M氏は中国東北部にある瀋陽市人民解放軍病院の眼科部長と話を交わした。すべての対話を録音することはできなかったが、彼女の記録では、この眼科主治医と自称する人物は同病院で「多くの角膜手術」を行ったと話し、更に「我々は新鮮な角膜を提供できる」と述べた。それは何を意味するのかと質問したところ、その医者は「…人体から摘出したばかりの角膜である」と回答した。

北京人民解放軍301病院のある外科医は2006年4月、M氏に対して自分は肝臓移植の手術を執刀したことがあり、臓器供給源は「国家機密」で、供給源を外部に漏らした医者には「この種の手術を行う資格を剥奪される」と告げた。

2006年6月8日、黒龍江省密山拘置所の幹部の一人は、当拘置所で、少なくとも5、6人の40歳以下の男性法輪功学習者の臓器を提供できると認めた。2006年3月中旬、上海の中山医院の医師は、自

分が扱うすべての臓器は法輪功学習者からのものであると話した。3月、山東省千仏医院の医師は、法輪功学習者の臓器を提供できると示唆し、4月になると、「このような臓器がさらに増える・・・」と話した。5月、南寧市民族医院の医師・陸氏は、この病院では法輪功学習者の臓器を提供していないと説明、広州市に電話して聞いてみた方が良いと提案した。また、以前自分も監獄に行き、30歳代の健康な法輪功学習者を臓器供給源として選んでいたことがあると認めた。

2006年3月中旬、河南省鄭州医科大学の王医師は「われわれが摘出したのは、皆若くて健康な腎臓・・・」と話した。2006年4月、広州軍区医院の朱医師は法輪功学習者の臓器であるB型腎臓を保有していると明かし、5月1日までは、さらに数回に分けて提供されるが、5月20日以降になると、恐らく供給がなくなると話した。

2006年5月中旬、遼寧省秦皇島市第一拘置所の職員は電話調査員に対し、法輪功学習者の腎臓を入手したいなら、中級人民法院と連絡をとりなさいと話した。同日、中級人民法院の職員の一人は、現在生きている法輪功学習者の腎臓を保有していないが、以前、2001年にはあったと回答した。最後に、2006年5月、錦州人民法院形一庭のある職員は電話調査員に対し、現在、法輪功学習者の腎臓を提供するかどうかは、臓器を求める人の「資格」に基づいて決めていると話した。

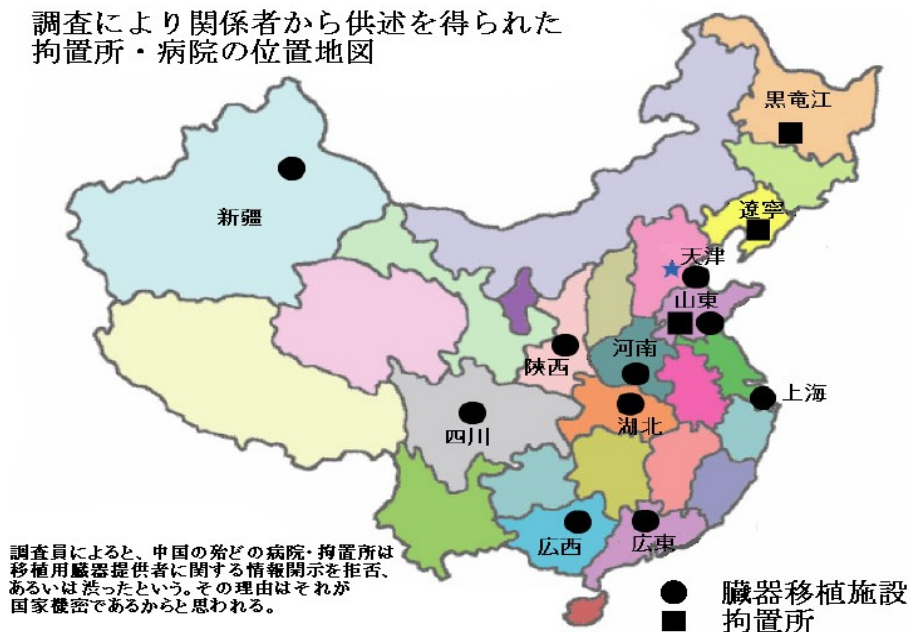
2006年3月中旬、天津市中心病院の宋部長は「現在病院には10数個の鼓動している心臓がある」ともらし、調査員がそれは「生きている人間か」と聞いたところ、宋は「そうだ」と認めた。

電話調査員は武漢市同濟医院に電話をかけ、「・・・我々は腎臓提供者が生きていることを望んでいる。移植用の臓器は生きている被拘禁者からのものを希望している。例えば、生きている法輪功学習者。そちらでは入手できるだろうか」と聞いた。2週間後、同医院のある職員は、その要求を満たすのは「問題がない」と知らせた。

電話調査員に対し、生きている法輪功学習者の臓器を強制摘出していることを認めた全ての拘禁施設と病院の所在地を下の中国地図にて示す。

多くの電話の通話記録は、本報告書に別紙として添付している。ここでは例として、3通の通話の抄録を挙げる。

調査により関係者から供述を得られた
拘置所・病院の位置地図



1. 黒龍江省密山市拘置所（2006年6月8日）

M：そちらでは法輪功学習者の（臓器）提供者がいるのか？

李：はい、以前はいた。

M：…今ではどうなっているのか？

李：…現在もいる。

…

M：我々がそちらに行って選ぶのか、

それともあなた達が直接提供してくれるのか？

李：こちらから提供する。

M：値段はいくらか？

李：あなた達がこちらに来てから話し合うこととしよう…。

M：そちらでは40歳以下の「法輪功の臓器提供者」は

どのぐらいいるのか？

李：かなりいる。

M：それは女性か、それとも男性か？

李：男性だ。

M：そしたら…そちらで男性の法輪功（囚人）は、何人いるのか？

李：7、8人いる。現在では少なくとも5、6人はいる。

M：彼らは農村の人なのか、それとも都会の人なのか？

M：農村の人だ。

2. 広西少数民族自治区南寧市民族医院（2006年5月22日）

M：…あなたは法輪功学習者の臓器を探しだせるのか？

陸医師：率直に言うと、我々は（法輪功学習者の臓器を）入手できない。現在では広西において獲得することは本当に困難だ。もし急いでいるのであれば、広州市に行ったほうが良い。そちらでは容易にそのような臓器を入手できる。彼らは全国範囲で探せるし、肝臓移植もしているから、同時にあなた達のために、腎臓も見つけてくれる。このことは彼らにとっては非常に容易なことだ。臓器供給が足りない地区の多くは、広州市に助けを求めている…。

M：彼らはどうして容易に入手できるのか？

陸：彼らは重要な機関だから。彼らが大学の名をかたり、司法制度と結託している。

M：では彼らは法輪功学習者の臓器を使っているのか？

陸：そうだ…

M：以前、あなた達が使っていた法輪功学習者の臓器は、拘禁施設から？ それとも刑務所から提供されたものか？

陸：刑務所からだ。

M：臓器は健康な法輪功学習者から得たものか？

陸：そう。我々は良い臓器を選んでいる、手術の品質を保証する為。

M：言わば、あなた自身が選んだ臓器か？

陸：そうだ。

M：一般では、臓器提供者の年齢はどのぐらいか？

陸：一般では30代の人だ。

M：あなた自らが刑務所に出向いて選ぶのか？

陸：そうだ。我々が選ばなければならないからだ。

M：もし選ばれた人が採血を拒否したらどうするのか？

陸：その人は必ず採血をさせてくれる。

M：どのようにするのか？

陸：彼ら（刑務所）には必ず方法がある。あなたが心配する事ない。

これらのことはあなたと関係がない。彼らには彼らのやり方がある。

M：選ばれた人は、自分の臓器が摘出されることを知っているか？

陸：いや、知らない。

3. 東方臓器移植センター（別名、天津市第一センター医院）

（2006年3月15日）

N：宋外科部長か？

宋：そうだが、どうぞ…。

N：ある女性患者の主治医は、あの腎臓の品質が非常に良いと言った。その人（腎臓の提供者）は法輪功を修煉しているからだというのだが？

宋：それは当然だ。我が病院で（臓器提供者）は皆まだ呼吸があり、心臓がまだ鼓動していた…現在まではそうだった。今年我々はすでに十数個の腎臓を移植した、十数個のそのような（新鮮な）腎臓だ。

N：十数個のそのような腎臓……言わば生きていた人の腎臓の事？

宋：その通りだ。

調査員M氏は、約80ヶ所の病院に電話し、時には移植手術をする医師と直接話すことができた。10ヶ所の病院が臓器の出所は法輪功学習者だと認めた。M氏と対話した病院の中で、5ヶ所の病院が直接法輪功学習者の臓器を入手することができると話し、14ヶ所の病院は生きている囚人から臓器を摘出したと認めた。10ヶ所の病院は臓器ドナーについて、秘密情報なので電話で話せないとM氏に伝えた。

また別の電話調査員N氏は、40ヶ所の病院に電話し、そのうち5ヶ所の病院が法輪功学習者の臓器を使用したと認めた。N氏はそれらの告白した医師たちにもう一度電話をかけたが、簡単に話すことができた。また、N氏は中国にある36ヶ所の拘置所と裁判所にも電話をかけたが、そのうちの4ヶ所が法輪功学習者を対象とした臓器狩りを認めた。

N氏は病院に電話する時、移植の担当医と直接話したいと要求し、更に法輪功学習者の臓器を使用したかどうかを直接問い合わせた。彼女が得る反応は通常、通話の相手がこの質問を予想していなかったようで、しばらく沈黙してしまう。法輪功学習者の臓器狩りを認めなかった8割の人は、生きた囚人から臓器を取ったことを認めた。また10人以下の人が、法輪功という言葉を聞くと、すぐに電話を切ってしまった。

独立調査団の一人は、英中通訳者を介して、米国およびカナダの法輪功学習者と中国大陸の現地病院施設などとの電話記録を聴取した。その録音記録は、中国語から英語に翻訳され、コピーが手元に届けられている。本報告書で引用した部分の翻訳の正確さは、オンタリオ州政府公認の翻訳者「C.Y.」氏が保証している。彼は、本報告書で引用した対話の中国語録音と英語翻訳文を審査した結果、中国語ディクテーションは正確で、英訳も正確であると確認した。実際の電話調査員二人と面会し、電話をかけた時の回線や、時間、録音、英訳の正確性、その他通話の特徴などを確認した。

我々は、電話調査でのやり取りの記録における口頭の承認が十分信用できるものであると結論付けている。調査の行われた場所や時間および調査を受けた人々の記録は、話された内容を正確に反映している。

さらに証言の内容も信ずるに足るものである。2008年オリンピック開催が近づいてくるにつれて、「臓器狩り」に対する国際的な非難が高まる中、存命中の法輪功学習者からの臓器収奪は行っていないと中国政府は国際社会を信じさせようとしているが、各種施設でなされた承認は中国政府の主張とまったく相反するものである。

3 1) 証言

アニー（仮名）と名乗る女性が、元夫の勤務していた病院情報を証言した。2003年10月までの2年間、中国東北部にある瀋陽市蘇家屯病院で、元夫は2,000人あまりの麻酔を受けた法輪功学習者の身体から角膜を摘出したという。2003年10月、彼は手術を継続することを拒否した。元夫の証言によると、角膜ドナーとなった法輪功学習者は、その後他の臓器も摘出され、火葬されるので生き残る人は誰もいないという。因みにアニーは法輪功学習者ではない。大紀元時報は彼女に対するインタビューを3月17日付（日本語版は3月24日付）の新聞に掲載した。

「私の家族のメンバーが、法輪功学習者からの臓器摘出手術に関与した。これは、家族に大きな苦しみをもたらした。」

彼女のインタビューは、真実か否かについて大きな反響を呼んだ。第1版の時、私たちはその証言の信頼性についての論争を回避する為、個人的にインタビューを行った。しかし、彼女が提供した詳細にわたる情報は、それを個別に裏付けることが非常に困難だった。我々は、一つのソースから得られた情報によって判断する事は避けたい。それゆえこの証言のうち他の証拠と付き合わせる事が可能で矛盾しないものだけを取り上げることにした。

本報告書は、アニーの論争を真正面から扱っている。我々は、元夫がアニーに話したことは信憑性があるものと受け入れた。アニーの証言自体、臓器狩りの告発に大いに貢献した。蘇家屯病院に関する付録には、大紀元3月17日付の報道により、引き起こされた論争の各観点に対して詳細な説明をした。

3 2) 補強調査

中共政権による法輪功学習者を対象とした臓器狩りが事実であるかどうかについて、我々以外に、二つの独立調査団が同様の問題を提起していた。この二つの調査団も、同じ結論にたどり着いた。これらの独立調査は、我々の結論を補強させるものである。

米ミネソタ大学の人権と医療計画副主任カーク・アリソン氏は、我々の報告書が発表される前から、本件について調査を行っていた。彼の論文は我々の発表のすぐ後、2006年7月25日に発表されたが、彼は我々より先に結論にたどり着いていた。アリソン氏も、法輪功学習者への臓器狩りが起きていると結論付けている。

もう一つの調査は欧州議会代理議長であるエドワード・マクミリアン＝スコット氏のもので、カーク・アリソン氏や我々と異なり、同氏は2006年5月19日から21日までの間に真相解明の為に中国へ渡っている。そこで2人の重要な証人、曹東氏および牛平氏と面会した。曹東氏との面会に関して、エドワード・マクミリアン＝スコット氏は報告書に以下のように記している。

「私は曹東氏に中国で臓器狩りの強制収容所の存在に気付いているかと聞いた。曹東氏はこのような強制収容所は確かに存在し、しかもそこへ送られた人の中には私の知人もいると述べた。彼は、法輪功学習者だった友人の遺体に、臓器摘出後に残された穴があるのを見たと言った」。

曹東氏はエドワード・マクミリアン＝スコット氏と面会した後、直ちに拘束された。中共当局は9月に彼を甘粛省に移し、12月に四つの罪名で彼を起訴したが、裁判官は曹東氏の訴訟について、当裁判所には裁く権利がないと明言した。なぜなら曹東氏の訴訟は北京にある法輪功取締本部(610オフィス)に管轄されているからである。

3 3) 中国政府からの返答

我々が前回発表した報告書に対する中国政府の返答は、その殆どが法輪功に対する誹謗中傷という説得力のないものであった。中国政府の返答が法輪功に対する攻撃に集中していたということは、実に本報告の分析が正確だったことを表している。これらの攻撃が、法輪功学習者に対する基本的人権の侵害を可能にしたのである。

中国政府の返答は、付録資料にある二つの誤りを指摘した。我々は付録の表題にある中国の2つの都市を、他の省にあると記した。しかしこの誤りは、本件の分析結果と結論になんら影響が出るものではない。

本報告書の付録で、私たちは中国政府の返答と、それに対する我々の返答の詳細を記した。ここで私たちが強調したいのは、中国政府は国内のあらゆる資料や情報を持っており、我々の分析や結論に反論しようと思えば、いくらでも反論の証拠を提出できるはずである。しかし、この報告に対するいかなる反論も提出されておらず、これは我々の報告書が正しいということを表している。

G. 更なる調査

明らかに本報告はこのテーマについての最終報告ではない。機会があれば、この報告を完成させるために我々が行いたいと考えていることは多くある。しかし、さらなる調査の行く手は今のところ阻まれている。本報告の内容に関して追加情報やコメントが自発的に個人や各国政府から寄せられる事を期待している。

我々は中国の病院で臓器移植の記録を見たい。そこには臓器提供者の同意が記されているのだろうか。そこには臓器の出所が記録されているだろうか。

多くの形態の臓器移植手術において、臓器提供者は移植手術後も生存できる。しかし、肝臓全部とか心臓提供を行った場合は生存出来ない。腎臓の場合は致命的ではないのが通常である。どこかに生存提供者がいるのだろうか。移植のランダムサンプリングを行って提供者が特定できるかどうかを調べたい。

亡くなった臓器提供者の家族は、提供者が同意していたか否かを知っているはずである。あるいは家族が同意していたのかもしれない。ここで我々は亡くなられた提供者の直系親族のランダムサンプリングを行って家族もしくは本人が臓器提供に同意していたか否かを調べたい。中国は近年、臓器移植施設の大幅な拡充を行っている。この拡充は臓器提供者の人数などについての予備調査（フィージビリティ・スタディ）を基にしているはずである。我々はこの予備調査の内容を調査したい。

H. 結論

知りえた事情に基づき、我々は残念ながらこの告発は事実であると言う結論を下さざるを得ない。我々は法輪功学習者からの大規模な臓器収奪は今日、なお継続されていると確信する。

中国政府及び全国に及ぶその下部機関、特に病院のみならず強制収容所と「人民法廷」は、1999年以來、数を特定することはできないが大勢の法輪功学習者という「良心の囚人」を死に至らしめたと言うのが我々の結論である。彼らの心臓、腎臓、肝臓、角膜などを含む臓器は収奪されると同時に高値で売却され、時には自国では通常提供者が現れるのを長い間待たねばならない外国人へも売却された。

どれほど多くの「臓器狩り」の犠牲者が合法的な裁判所において何らかの犯罪、重罪若しくはその他で、有罪とされたのかについては、これを推定することはできない。というのは、そうした情報は、中国籍を有する者及び外国籍を有する者のいずれについても記録されていないからである。我々の見るところでは、中国共産党の一党独裁が脅かされると考えた江沢民主席によって7年前に非合法とされた、平和的な自発的団体に属していた多くの人々が、事実上臓器収奪の目的で医師によって処刑された。我々の結論は一つの証拠に基づくものではなくむしろ多くの断片をつなぎ合わせたものとなっている。証拠とされたもののそれぞれは多くの場合検証可能で検証に耐えうる。それらをつなぎ合わせる事により非難すべき全体像が見えてくる。こういった事実の組み合わせによって我々は結論を確信するに到ったのである。

I. 勧告

a) 総合

1. カナダと中国の間で行われている現在の人権問題に関する対談を止めるべきである。カナダの政治学者で外交官のチャールズ・バートン氏は最近、この対談は見せかけだと述べた。振り返ってみれば、カナダ政府は国連人権会議で中国を非難する決議に参加しないという対談に賛成したが、それは間違いだった。
2. 強制労働収容所などを含め、あらゆる拘留施設を国際赤十字や他の人権団体からの国際社会の監査機関の為に公開すべきである。
3. 高智晟弁護士への判決は撤回すべきで、奪われた弁護士資格を回復すべきである。
4. 中共政府は国連の拷問等禁止条約選択議定書を遵守すべきである。

b) 臓器狩りに関して

5. 中国政府は犯罪者からの臓器摘出を停止すべきである。
6. 中国軍は直ちに臓器移植事業から撤退すべきである。
7. 系統的で大規模な臓器提供を望まない者からの臓器を摘出することは非人道的な罪であり、中国警察はこれらを調査し、犯罪者を提訴すべきである。
8. 他国政府は治外法権に対して制定し、臓器狩りに参与した犯罪者を裁くべきである。
9. 各国移植医療機構は、臓器狩りおよび術後ケアの費用で利益を得る彼らの事業への関与を拒否すべきである。
 - 海外で臓器移植のトレーニングを受けない。
 - 中国人医師にビザを発給しない。
 - 海外の臓器移植に従事する医師は中国人の移植医をトレーニングするなどの理由で中国に行くべきでない。
 - 医学誌に投稿した中国大陸の移植研究論文は否定すべき。
 - 海外の医療部門はなるべく自国の臓器移植希望患者が中国での移植手術を受けることを阻止する。
 - 製薬会社は中国に免疫抑制剤或いは移植手術に用いる薬物を提供しない。
 - 外国政府も中国に免疫抑制剤或いは移植手術に用いる薬物を輸出しない。
10. 中国臓器狩りに関与した如何なる人物も諸外国の入国を禁止されるべきである。
11. 中共政府が犯罪者の臓器狩りを停止するまで下記の措置をとる。
12. 患者に中国での移植手術を勧め、或いは臓器移植において中国側と協力関係にある外国の臓器移植専門家はドナーの源を確認する義務がある。
13. 各国医療部門は義務通報システムを確立すべきで、中国で臓器移植手術をした総合データを随時把握する。
14. 各国病院はいかなる臓器移植手術に対してもファイル进行管理しなければならない。しかも国際人権機構はこれらのファイルを随時に閲覧することができる様にすべきである。
15. すべてのドナーは同意書にサインをし、これらの同意書を国際人権機構が随時に閲覧することができる。
16. 国民の自由意志で臓器を提供することを、中国政府は提唱すべきである。
17. 世界各国は臓器移植手術のための中国への渡航に警告を発布し、中国で行われる臓器移植はほとんど同意が得られていない囚人或いは法輪功学習者から摘出した臓器であることを自国民に周知させるべきである。

c) 法輪功に関して

18. 法輪功学習者への弾圧・監禁・虐待を停止すべきである。
19. 法輪功学習者からの臓器狩りを停止すべきである。
20. 各国政府、NGO及び各人権組織は本報告書が提起したことに厳粛に対処すべきで、これらの問題の真偽に対して自らの判断を下すべきである。

J. あとがき

我々の一番目の提案を受け入れるということは、即ちこれらの告発が事実であることを認めたことを意味する。それ以外の提案は、これらを受け入れたからといって本件告発の真実性を認めたことになるわけではない。したがって、立場の違いがどうであれ、二番目以降の提案についてはこれを受け入れるべきである。

その他の提案は、告発が真実であるかどうかに関係なく、すべて意味があり、実行されうる。そのうち幾つかの提案は国際社会に提案するものである。これらの提案は、中共政府が臓器移植の国際規約を尊重するよう、国際社会が促すことを求めるものである。

我々は、中国政府が本件告発を必ず否認するであろうことをよく承知している。中国政府にとつ


て、最も説得力があり、かつ最も有効にこれらの告発を否認する方法は、前述の真偽であるかどうかに関わらず提案されるその他の項目を実施することだと思う。これらの提案が実施されたならば、本件告発はもはや行われえないであろう。

本件告発に懐疑の態度を持つ人は、次の問題を自分自身に聞いてみていただきたい。つまり、これらの告発の中に陳述したことは、どうすれば、現実には起こらないよう防げるかという問題である。報告書の中で告発したこれらの犯罪行為への予防策についての共通認識が中国ではほとんど失われてしまっている。

中国だけではなく、いかなる国家においても、社会の底辺にいる社会的立場が弱い人々から、本人の志願もなくその臓器を収奪する行為の予防措置を講ずるべきである。本件告発に対してあなたがどう思っているかに関わらず、我々は再び強調するが、本件告発は事実であると我々は確信している。なぜなら、中国において、このような事件の発生を制止するための予防措置はまったく存在していないからである。最近、新たな臓器移植関連法が立法されたが、本報告書に言及された臓器狩り事件を防ぐ基本的予防措置はまったく実施されていない。そのために、関連法が全面的に実施され、予防の補助作用を発揮させなければならない。

死刑制度が間違っているという主張は多い。特に、死刑を執行する側に生命を絶つ痛みが鈍化してしまうことが問題である。つまり、国家が無防備な囚人を殺した場合、次の段階として、囚人の意思に関係なく臓器を収奪することがいとも簡単に行えるようになるということだ。中国では間違いなく、これが起きている。死刑囚本人の同意がなく臓器を狩るという状況が成立すると、さらに次のようなことが起きやすくなる。つまり、迫害されて自由を失い、すべての自衛の権利を失った囚人から本人の同意がなくその臓器を獲得することである。特にこのことによって暴利を得ることができる場合はなおさら起きやすくなる。我々は中国共産党政府に強く要求する、本報告書で言及した告発を中共当局がどう受け止めるか関知しないが、臓器提供の意思のない法輪功学習者から強制的に「臓器を狩る」可能性が微塵でもあるのなら、全力で予防措置を採ってほしい。

以上



デービッド・マタス



デービッド・キルガー

オタワ 2007年1月31日

【注釈】

[1] 1999年、ハーバード大学出版『共産主義黒書』；2005年、『マオ―誰も知らなかった毛沢東』ユン・チアン、ジョン・ハリデイ

[2] アムネスティ・インターナショナルとヒューマン・ライツ・ウォッチの中国に関する年次報告書参照

[3] 「中共は高智晟がエポック・タイムスのために書いただけで彼を犯人扱いすべきではない」エポック・タイムス 2006年12月24日

[4] 「中国での病気は高くつく」北京BBCニュース、ルイジーナ・リム 2006年3月2日

[5] 「中国の公衆衛生：組織、財源とサービスの提供」ジェフリー・コプラン 2005年7月27日

[6] 「経済社会と文化的権利における国際的契約の中国での施行」2005年4月14日 24ページ、段落69

[7] <http://www.309yizhi.com/webapp/center/intro.jsp>

2006年7月初めまで閲覧可能だったが、後に削除された。アーカイブサイトのページ：

<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fwww.309yizhi.com%2Fwebapp%2Fcenter%2Fintro.jsp&x=0&y=0>

[8] http://www.chinadaily.com.cn/china/2006-05/05/content_582847.htm

(2006年5月5日、中国日報・英文) アーカイブサイトを参

- 照 : http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://www.chinadaily.com.cn/china/2006-05/05/content_582847.htm
- [9] <http://www.transplantation.org.cn/html/2006-04/467.html>
「生命週刊」2006年4月7日、アーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fwww.transplantation.org.cn%2Fhtml%2F2006-04%2F467.html+%x=26&y=11>
- [10] <http://en.zoukiishoku.com/list/qa2.htm>,
アーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Fqa2.htm+%x=19&y=11>
- [11] <http://en.zoukiishoku.com/list/volunteer.htm>
アーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Fvolunteer.htm+%x=8&y=9>
- [12] 最初のページは変更された。アーカイブサイトを参照 :
http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://www.ootc.net/special_images/ootc1.png
- [13] <http://www.transorgan.com/apply.asp>
アーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fwww.transorgan.com%2Fapply.asp+%x=15&y=8>
- [14] カナダ臓器移植登録所、カナダ健康情報学会 2005年7月
(http://www.cihi.ca/cihiweb/en/downloads/CORR-CST2005_Gill-rev_July22_2005.ppt)
- [15] 臓器提供と適合検査、臓器獲得および移植ネット
<http://www.optn.org/about/transplantation/matchingProcess.asp>
- [16] ウェブサイトは変更された。元のページの参照 :
<http://web.archive.org/web/20050305122521/http://en.zoukiishoku.com/>
- [17] <http://en.zoukiishoku.com/list/facts.htm> 或いはアーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Ffacts.htm+%x=24&y=12>
- [18] <http://en.zoukiishoku.com/list/qa.htm> 或いはアーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Fqa.htm+%x=27&y=10>
- [19] <http://en.zoukiishoku.com/list/qa7.htm> あるいはアーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Fqa7.htm+%x=35&y=10>
- [20] 最初のページは変更された。アーカイブサイトを参照 :
http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://www.ootc.net/special_images/ootc_achievement.jpg
http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://www.ootc.net/special_images/ootc2.png
- [21] 最初のページは変更された。アーカイブサイトを参照 :
http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://www.ootc.net/special_images/ootc_case.jpg
http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://www.ootc.net/special_images/ootc1.png
- [22] <http://www.health.sohu.com/20060426/n243015842.shtml>
アーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/content5.php?uri=http://health.sohu.com/52/81/harticle15198152.shtml>
- [23] 元のページは2005年3月に削除された。現在そのページの資料は以下のURLから参照できる :
http://web.archive.org/web/20050317130117/http://www.transorgan.com/about_g_intro.asp
<http://www.transorgan.com/apply.asp>
- [24] アーカイブサイトを参照 :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fwww.transorgan.com%2Fapply.asp+%x=15&y=8>
- [25] しかし、2006年3月からのこのウェブサイトの情報は、アーカイブサイトで参照できる :
<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Fcost.htm+%x=16&y=11>
- [26] 13節
- [27] 2001年春、デービッド・オーンビー、カナダ国際問題研究所への論文「法輪功とカナダの中国政策」、『国際雑誌』第56期に掲載
- [28] 『法輪功による中国への挑戦』2000年、ダニー・シュエッチャー、アカシック・ブックス、44～46P

- [29] <http://web.amnesty.org/library/Index/engASA170282001>
- [30] 警察推薦にもかかわらず、司法長官は訴追しないことを決めている。
- [31] 付録6 (1999年6月) 中共政治局で法輪功問題の早期解決について江沢民のスピーチ
- [32] 米国同一会議<http://thomas.loc.gov/cgi-bin/query/z?c107:hc188>
- [33] 国連人権議会: 拷問と他の被害、非人道的で名誉毀損に至る処置および処罰について特別報告者からの報告書。2006年3月10日 (E/CN.4/2006/6/Add.6)。
<http://www.ohchr.org/english/bodies/chr/docs/62chr/ecn4-2006-6-Add6.doc>
- [34] ワシントン・ポスト海外部 「残虐な拷問で法輪功を弾圧: 中国共産党の組織的な撲滅政策」 ジョン・ボンレット、フィリップ・P・パン 2001年8月5日
- [35] 米国国務省 国別人権習慣調査 中国 2006年3月8日
<http://www.state.gov/g/drl/rls/hrrpt/2005/61605.htm>
- [36] 強制失踪からの保護に関する国際会議 項目2
- [37] <http://www.chinapharm.com.cn/html/xxhc/2002124105954.html> 中国薬剤ネット2002年12月5日
保管ページ:
<http://archive.edoors.com/content5.php?url=http://www.chinapharm.com.cn/html/xxhc/2002124105954.html>
- [38] 「中国: 死刑囚の臓器売買を整顿」 英タイムズ 2005年12月3日
<http://www.timesonline.co.uk/article/0,25689-1901558,00.html>
- [39] 「北京: 死刑囚臓器の利用に関する新しい立法を考案」 2005年11月28日『財經雑誌』第147期
<http://caijing.hexun.com/english/detail.aspx?issue=147&sl=2488&id=1430379>
- [40] アムネスティ・インターナショナルの報告書の索引 (各年度の報告を参照)
<http://www.amnesty.org/ailib/aireport/index.html>
- [41] <http://www.biotech.org.cn/news/news/show.php?id=84> 中国生物科学技術
<http://www.chinapharm.com.cn/html/xxhc/2002124105954.html> 中国医薬ネット 付録 [39] 参照
<http://www.people.com.cn/GB/14739/14740/21474/2766303.html> 『人民日報』2004年9月7日新華社
- [42] 「腎移植の症例数」(アジア、中近東) 1989年から2000年まで「医療ネット」(日本)
http://www.medi-net.or.jp/tcnet/DATA/renal_a.html
- [43] <http://www.transplantation.org.cn/html/2006-03/394.html> 健康論文ネット2006年3月2日参照:
<http://archive.edoors.com/render.php?url=http%3A%2F%2Fwww.transplantation.org.cn%2Fhtml%2F2006-03%2F394.html+%x=32&y=11>
- [44] 世界移植学会・抄録、「現在中国での臓器ドナーの状況」
[http://www.abstracts2view.com/wtc/ZhonghuaChen, FanjunZeng, ChangshengMing, JunjieMa, JipinJiang](http://www.abstracts2view.com/wtc/ZhonghuaChen,FanjunZeng,ChangshengMing,JunjieMa,JipinJiang)、臓器移植学会会員、同濟病院、同濟医科大学、HUST、武漢、中国
http://www.abstracts2view.com/wtc/view.php?nu=WTC06L_1100&terms
- [45] <http://www.transplantation.org.cn/html/2006-03/400.html>
(『北京青年報』2006-03-06)
- [46] <http://www.100md.com/html/DirDu/2004/11/15/63/30/56.html> 中国製薬誌 2004年11月15日
- [47] 付録5. ケース7
- [48] 付録1. ケース4
- [49] <http://unn.people.com.cn/GB/channel413/417/1100/1131/200010/17/1857.html>
(人民日報と地方日報2000年10月17日、参照)
<http://archive.edoors.com/content5.php?url=http://unn.people.com.cn/GB/channel413/417/1100/1131/200010/17/1857.html>
- [50] 衛生部副部長、黄傑夫(「生命週聞」2006年4月7日),
<http://www.transplantation.org.cn/html/2006-04/467.html>
<http://archive.edoors.com/render.php?url=http%3A%2F%2Fwww.transplantation.org.cn%2Fhtml%2F2006-04%2F467.html+%x=26&y=11>
- [51] <http://www.transplantation.org.cn/html/2004-10/38.html> (「生命週聞」2004年10月18日)
- [52] http://www.cq.xinhuanet.com/health/2006-04/04/content_6645317.htm
(新華通信, Chongqing支店, 2004年4月4日)
- [53] <http://www.liver-tx.net/EN/PressEN.htm>
- [54] <http://www.bjcyh.com.cn>
- [55] <http://www.309yizhi.com/> 場所: 北京
- [56] <http://www.transorgan.com/about.asp>
- [57] <http://www2.sjtu.edu.cn/newweb/chinese/web3/school20/hospital1/01.htm>
- [58] <http://www.oetc.net/>

K. 付録資料

【付録1】手術を受けた患者の体験告白

事例1： H.X氏 男性 30代半ば A型 アジア出身

1999年に慢性腎不全と診断され、2000年に腎臓移植を受けるため台湾のいくつかの病院を回る。

2003年7月あるいは8月頃、彼は腎臓移植を受けるために中国本土に行くことを決めた。その時、腹膜透析ケアワーカーが、中国本土で移植手術を受けるためのブローカーを、H.X.氏に紹介した。2003年9月、ブローカーは彼の腎臓に合うHLA 3が見つかったと連絡し、腎臓移植のために中国本土へ渡る。

一回目の中国渡航

同月、H.X.氏妻を連れて上海へ向かう。上海第一人民医院（別名：上海交通大学医院）は彼を迎え、そしてすぐに入院処置が施された。

届けられた新しい腎臓は、抗体テストがなされた時、微量リンパ球毒障害試験で陽性と診断される。そのためH.X.氏はこの腎臓を使うことができなかった。

彼は、適合する腎臓を見つけるため2週間入院し続けた。この期間、新しい腎臓が生きているドナーから摘出されて、彼（上記のものを含む）のために、合計4個の腎臓がこの病院へ運び込まれた。腎臓が到着するたびに抗体テストが実行された。すべての臓器に初回のような陽性反応が出たため、臓器はすでにドナーの体から摘出されたものだったが、使うことができなかった。2週後の10月1日、H.X.氏は仕事の関係で帰国した。

二回目の中国渡航

H.X.氏は、移植を急ぐ必要はないと決め、休養し体を回復させることにした。2004年3月、再び移植手術が必要となった。

彼は、適合する臓器が見つかったため、再び中国本土に行くよう連絡を受けた。彼は再び上海第一人民医院に入院した。担当医は彼の器官に合うHLA 5が見つかったと説明を受け、適合する腎臓が病院に届けられた。しかし、微量リンパ球毒障害試験の結果はまた陽性であった。H.X.氏の血液サンプルは、血漿レニン活性という同試験の時陽性反応がよく現れるホルモンが30%以上もあった。中国本土の医者は、プラズマフェレーシス（有害な物質を含む血漿を血液から除去して、症状を軽減させる治療法）を受けるよう提案したが、彼を推薦した台湾の医者は同治療法に反対し、抗体テストで適合する臓器を待ち続けることを提案した。H.X.氏は、病院で待ち続けた。更に2つの適合する腎臓が見つかり、病院へ届けられたが、これらも同様に陽性反応を示した為、移植に使うことができなかった。彼の腎臓に適合するHLA 4の臓器が見つかった時は、すでに4月になっていた。H.X.氏は、2004年4月23日、移植手術を受けた。

主治医はタン・ジャンミン氏だった。手術後、彼は1週間ほど隔離病棟に滞在し、その後中国人民解放軍第85病院の海外中国局へ転院し、8日間ほど入院した。2004年5月8日、台湾に戻った。

H.X.氏によると、上海第一人民医院は主に香港、マカオと台湾出身の裕福な人々のために臓器移植をするという。一方、マレーシア、インドネシアあるいは地元の人々は、臓器移植のために第85中国人民解放軍病院に行くという。二つの病院は、福州南京軍の地域総合病院から来たタン博士の医師団により管理されている。

H.X.氏の妻は、臓器ドナーと彼らのHLA情報が掲載された20枚綴りのリスト用紙を見た。医者はリストから2、3件選び、注文するという。臓器が到着すると、適合テストが実施される。試験結果が陽性ならば、移植手術はキャンセルされ、陰性ならば、手術が行われる。医者は、臓器が処刑された囚人からのもの

のだとH.X.氏に話した。

ノート：H.X.氏が移植を受けた上海第一人民医院は民間の病院で、タン・ジャンミン医師は移植部門の主治医だったが、軍の臓器移植センターの責任者でもあり、また泌尿器科局長、更には福州南京軍60番総合病院の副院長である。軍病院で働いている医師だけが臓器を簡単に得ることができると言われている。

事例2：ルウ・Z氏 B型 40代 アジア出身

ルウ・Z氏は、2000年5月に慢性腎不全があると診断された。彼女は腎臓透析を受けた後、腎臓移植のために中国本土へ行くよう勧められた。2001年5月11日、彼女はブローカーに健康記録を渡し、結果を待つよう言われる。およそ2週間後、彼女は適合する臓器が見つかり中国へ渡航するという通知を受ける。その時、彼女は精神的な準備が整っていなかった。なぜなら、それほど早く適合する臓器が見つかると思っていなかったからだ。そのため彼女はこのチャンスを諦めることにした。更に2週間後、ブローカーは再び、彼女と適合する臓器が見つかったと連絡してきた。今度は、移植のために中国本土へ旅立つことを決意し、手術は6月末に予定されていた。移植手術を望む7人の患者は一団となり中国に向かった。全員、200,000香港ドルを用意するように言われた。

2001年6月25日、ブローカーが空港で彼らを出迎え、およそ2時間かけてバスで移動し、東莞市へ連れて行った。同日、彼らは東莞市の太平人民医院に入院した。健康診断も行われた。(血液検査、X線、超音波など)。

同日(2001年6月25日)、病院スタッフは、各患者から140,000～150,000香港ドルを受け取り、簡易な領収書を手渡した(血液型O型の患者と、60歳以上の患者は、別途20,000香港ドルを支払わなければならなかった)この移植センターのディレクターはウェイ・ガオ教授だったが、ルウ.Z氏は彼女の担当医が誰なのか分からなかった。

7人は全員、次の日の6月26日に腎臓移植手術を受けた。手術は3つの手術室で同時に行われた。脊髄麻酔が行われ、ルウ.Z氏は午後8時00分頃に手術室に運ばれた。手術が完了したのは、真夜中の12時頃だった。ルウ.Z氏は医師から、彼女と適合するHLA4の臓器が見つかったと言われた。

同じ日に移植を受けた他の患者には、インドネシア人、地元の中国人、フランス系中国人などがいた。病院の副院長シュウ・ジャアファ氏は、5年間病院で腎臓透析を行っていたら、患者は無料で腎臓移植を受けることができるだろうと話した。

7人の患者は、7日間隔離室に入院し、7月3日に帰国した。誰もルウ.Z氏に臓器供給源についての情報を話さなかった。病院の医師は彼女にこの情報をまったく開示せず、誰が医者であるかも知らされなかった。ブローカーは、臓器が死刑囚からであると患者に説明した。

事例5：C氏 アジア出身

C氏は、肝臓移植手術失敗の為、2005年夏に死亡。

C氏は、8月初めに家族旅行中、腹部の痛みで北京の日中友好病院に入院した。彼は、肝臓に腫瘍があると診断され、手術を受けるよう勧められる。手術は2005年9月7日に行われたが、C氏は術後危篤状態となった。院長はC氏に、北京人民軍警察病院に移って、肝臓移植手術を受けるよう提案した。北京人民軍警察病院へ入院すると、24時間以内に適合する肝臓が見つかり、移植手術はすぐさま行われた。しかし患者は、手術後4日に死亡した。

ノート：肝臓移植は北京人民軍警察病院で行われ、肝臓は24時間以内に提供された。軍病院やそのスタッフたちは、臓器を簡単に入手することができるといわれている。

【付録2】 告白

法輪功学習者たちから角膜を摘出していた中国人外科医の元妻とのインタビュー

2006年5月20日、デービッド・キルガーは、法輪功学習者たちから角膜を摘出していたという中国人外科医の元妻のインタビューを行った。下記の会話記録は、公表されることによって身の危険を被る恐れのある人物を守るため、省略、あるいは編集されている。

アニー：法輪功学習者から角膜を摘出していた中国人外科医の元妻

A: インタビューに同席した人物で、2つ質問をした。

キルガー：・・・この事件を、最も近くで目撃したのは、アニーだ。2001年、（蘇家屯病院で）いつから食糧供給の量が増えたのか？

アニー：7月頃、夏。

キルガー：2001年7月。君は、経理部だったのか？

アニー：統計ロジスティクス部だ。

キルガー：統計ロジスティクス部。何が起きたのか？食糧の購入量が増え、それから手術道具が増えた？

アニー：2001年7月、統計ロジスティクス部には、たくさんの人が働いていた。彼らは、物品を購入した後のレシートを私のところへ持ってくるので、私がサインした。レシートを見ると、食糧の購買量が急激に増えているのが分かった。更に、物資運用の人たちが、法輪功学習者たちが収容されている設備へ食事を運んでいた。他の医療スタッフが私の部署へやってきて、医薬品の購入を報告した。レシートを見ると、医療品の供給も急激に増えていた。

キルガー：ところで、法輪功学習者を収容しているのが、地下なのか？

アニー：病院の裏庭に、建設作業員のために建てたような、1階建ての家が建っていた。数か月後、食糧やその他の物品量が減っていった。その時、監禁されている人たちは、地下の設備へ移送されたのだと人々は言っていた。

キルガー：いつ、その供給は減ったのか？9月？10月？

アニー：4月か、5月くらい。

キルガー：2001年の最後？

アニー：そうだ。

キルガー：（アニーが見たレシートから）推定、どのくらいの量の食糧が増えたのか？何人くらいの人在那里にいたと思うか？

アニー：食糧を確保し、それを収容している法輪功学習者たちに送り届ける担当の人は、5,000人から6,000人の学習者がいると私に言った。当時、各地のたくさんの公安や病院は、たくさんの法輪功学習者を収容していた。多くの病院のスタッフは、私を含めて、法輪功学習者ではない。だから、私たちは、関心を持たなかった。もし2003年に起きた、私の元夫が直接この件に関与していたことがなければ、私はたぶんこの件に関して全く関心がなかっただろう。我々の部署で働く多くのスタッフは、政府の医療システムで働く官僚の家族だ。いくつかのことに関して、私たちは気付いていたが、誰もそのことについて話さなかった。

キルガー：いつその購買量は減ったのか、学習者たちはどこへ行ったと思うか？

アニー：私たちは、彼らが釈放されたと思っていた。

キルガー：2001年末、彼らが釈放されたと？

アニー：そうだ。

キルガー：5,000人の人たち、全員が釈放？

アニー：いや、まだ法輪功学習者は収容されていたが、人数は少しずつ減っていった。その後、2003年、法輪功学習者たちが地下室や、他の病院へ移送されたと知った。なぜなら、私たちの病院は、そんなにたくさんの人々を収容できないから。

キルガー：彼らが、裏庭にある家や小屋から去って、地下室へいったのか？

アニー：そう、2002年に知った。

キルガー：君は、法輪功学習者が裏庭の家や小屋に収容されていた時、食糧を運ぶ係ではなかったと言った？

アニー：そうだ。わたしではない。

キルガー：彼らが君の管轄を去った後、誰が彼らに食糧を届けたのか？

アニー：私は知らない。

キルガー：私は、たくさんの人々が臓器狩りのために殺されたと聞いた。2001年と2002年。この理解は、正しいか？

アニー：2001年から2002年の間、私は臓器狩りに関して、何も知らなかった。私は、ただ収容されている人がいることだけを知っていた。

キルガー：つまり、2003年にあなたの夫が君に話すまでは、何も知らなかった。

アニー：そうだ。

キルガー：彼は、2001年から2002年に、すでにこのような手術を行っていたと君に言ったか？

アニー：そう、彼は2002年に始めた。

キルガー：あなたの元夫が始めたのは2002年？

アニー：そうだ。

キルガー：2001年以来、(臓器摘出)手術があったかどうか、だいたい分かっていた？

アニー：手術が始まったのは2001年。一部は私たちの病院で、また一部は他地区の病院で行われていた。私は2003年にそれを発見した。彼は最初にも手術を行っていた。しかし、彼はそれらが法輪功学習者だとは知らなかった。彼は神経外科医だ。彼は、角膜を摘出していた。2002年から、彼はそれらが法輪功学習者だと気づき始めた。私たちの病院は、臓器移植の病院ではないから—そこは、摘出専門だ—どのようにそれらの臓器が移植されたのか、彼は知らなかった。

キルガー：あなたの元夫は、法輪功学習者の臓器摘出を始めたのはいつから？

アニー：2001年の末、彼は手術を始めた。しかし彼はそれら生体が法輪功学習者だとは知らなかった。2002年に彼は知るようになった。

キルガー：彼はどの臓器を摘出していたのか？

アニー：角膜だ。

キルガー：角膜だけ？

アニー：そうだ。

キルガー：彼らは、生きていたか、それとも死んでいたか？

アニー：通常、それらの法輪功学習者たちは心不全を起こす注射を打たれる。その過程で、彼らは臓器摘出のために手術室に運び込まれる。表面的には、注射のために心臓は鼓動が止まるが、脳は機能している。

キルガー：注射は、なんて呼ばれていた？

アニー：その名前は知らないが、それが心不全を起こす。私は、看護婦でも、医師でもない。私はその注射の名前を知らない。

キルガー：心不全を起こす、それはすべての人に？それとも一部の人だけ？

アニー：ほとんど全員だ。

キルガー：彼は角膜を摘出するが、その後これらの人はどうするのか？

アニー：これらの人々はその後他の手術室へ運ばれ、心臓、肝臓、腎臓などが摘出される。ある手術の時、彼は他の医師と一緒にいたが、その時それらの人々が法輪功学習者だということ、そして臓器は生体から抜き取られ、角膜だけではないこと—彼らがその他の臓器も摘出していたことを知った。

キルガー：彼らは、他の部屋で行っていたのではなかったか？

アニー：後の時期になると、医師らは協力し、一緒に手術を行うようになっていった。最初は、情報が漏れるのを恐れて臓器は別々の部屋で異なる医師が摘出していた。後に、彼らはお金を手にするようになると、何も恐れなくなった。彼らは臓器と一緒に摘出するようになった。その他の、他の病院で手術を受けた学習者たちに関しては、元夫は何も知らない。私たちの病院にいる学習者たちは、彼らの腎臓、肝臓など、そして皮膚が摘出されると、骨と肉だけが残る。遺体は病院のボイラー室へ投げ込まれる。最初は、これが起こっていると信じられなかった。手術ミスをした何人かの医師は、幻想を見るようになった。だから、私は他の医師や政府の医療システムの官僚に聞いてみた。

キルガー：2003年、それとも2002年？

アニー：2003年。

キルガー：あなたの夫は、角膜だけ？

アニー：そうだ。

キルガー：元夫は、何件くらいの角膜摘出の手術を行ったのか？

アニー：彼は、2,000件と言った。

キルガー：2,000人の角膜？それとも、2,000個の角膜？

アニー：約2,000人からの角膜。

キルガー：それは2001年から2003年まで？

アニー：2001年末から、2003年10月だ。

キルガー：彼が辞めたのはその時か？

アニー：私が知ったのもその時で、彼はそれをやらなくなった。

キルガー：それらの角膜は、どこへ行ったのか？

アニー：それらは通常、他の病院で収集されていた。臓器を摘出して他の地区とか他の病院へ売買するビジネスをやるシステムが存在した。

キルガー：近くに、それとも遠くに？

アニー：知らない。

キルガー：すべての心臓、肝臓、腎臓と角膜が、他の病院へ持っていかれた？

アニー：そうだ。

キルガー：いくらでそれらが売られていたか、知っているか？

アニー：その当時は知らなかった。しかし、2002年、近所の人が肝臓移植を受けた。200,000元だった。外国人よりも、中国人には少し安い値が付けられていた。

キルガー：どっちの年か、2001年、それとも2002年？

アニー：2002年。

キルガー：あなたの夫は、何を言われたのか？なにを持ってそれを正当化したのか？彼らは、完全に健康な人々だった……

アニー：最初は、彼は何も言われなかった。彼は、他の病院にいたときに、手伝うよう頼まれた。しかし、彼が助けてあげると、いつでも大金をもらい、それは彼の給料の何倍にもなるお金だった。

キルガー：2,000件の角膜を摘出して、合計いくらのお金を得たのか？

アニー：何百、何千米ドル。

キルガー：米ドルでの支払いだったのか？

アニー：人民元で払われた。何百、何千米ドルに匹敵する。

キルガー：何人の医師がこれらの臓器摘出を病院で行い、それはどこの地区で行われたのか？100人の医師か、それとも何十人か、それとも10人？

アニー：何人の人々がやっているのか、厳密には分からない。しかし、5人から6人の知り合いが病院でやっていたのは知っている。他の病院では、一般の医師もこれを行っている。

キルガー：何人の手術が行われたのか、統計部に記録があるか？

アニー：このタイプの手術には、適切な手続きもないし書類手続きもない。だから、手術件数を通常のやり方で数えることはできない。

キルガー：2001年末に学習者たちが地下へ送られてから、あなたはその食糧がどこから来たのか、知っていたか？

アニー：食糧は、私たちの部門から来ていた、ただ量が少しずつ減っていた。2001年末、私たちは、彼らが釈放されたと思った。2003年、彼らは釈放されたのではなく、地下へ移送された、もしくは他の病院へ

移されたのだと知った。

キルガー：地下設備は、軍部が管理していたのか、それとも病院か？あなたは、食糧が病院から供給されていたと言っていたが。

アニー：私たちは、拘束された人たちや、地下に監禁された人たちのための食糧購入の責任はない。だから、人々が地下へ移動させられてから、食糧の購買量に変化が起きた。一部の収容者たちには病院が食糧を提供していたが、他の人たちには提供していなかった。食糧の量の減少は、収容人数の減少と釣り合っていなかった。

キルガー：あなたの夫は、地下設備のことを何て言っていたか？5,000人が殺された？それとも、もっと多い？

アニー：彼は、どのくらい的人数が地下に監禁されているのか知らなかった。彼は、人々が地下に監禁されていると他の人から聞いただけだ。もし3件の手術を毎日行ったら、数年後には、5,000～6,000人の手術となり、ほとんどの人は残らないだろう。この全体のたくらみと臓器売買は、政府の医療システムが組織している。医師たちの職務は、ただ言われたことをやるだけだ。

キルガー：彼は、地下設備へ下りたことはないのか？

アニー：ない。

キルガー：基本的な手術室が、地下設備になかった？

アニー：彼は、一度もそこへ行ったことがない。

キルガー：これらの人々は、手術されている時、死亡していたか？心臓は止まっていたか？彼は、後で彼らが殺されてしまうことを知っていたか？彼らは、まだ死んでいなかった。

アニー：最初、彼はそれらの人々が法輪功学習者だと知らなかった。時間が経つにつれて、それらが法輪功学習者だと分かるようになった。彼らはたくさんの臓器摘出をするにつれて大胆になり、一緒に摘出を行うようになった。この医師が角膜、その医師が腎臓、あの医師が肝臓というように。その時、その患者が法輪功学習者で、その次にこの遺体がどうなるのが分かった。（通訳者が2つの省略された言葉を付け加えた。：そうだ、心臓は止まっていた、しかし彼らはまだ生きていた）もし被害者の皮膚が剥がされず、内蔵だけが摘出された場合、開腹されていた身体は閉じられ、エージェントが用紙にサインする。遺体は蘇家屯近くの火葬場へ送られた。

キルガー：皮膚が剥がされた場合のみ、ボイラー室へ送られるのか？

アニー：そうだ。

キルガー：通常、死因は何て特定しているのか？

アニー：通常、遺体が火葬場へ送られる時は、特に理由はいらない。普通、理由は「心臓の鼓動が止まった」、「心不全」。これらの人々が逮捕されて収容された時、誰も彼らの名前や、どこから来たのかも知らな

い。だから、彼らが火葬場へ送られても、だれもその遺体を要求する人はいない。

キルガー：誰が心臓を止める薬を処方したのか？

アニー：看護婦だ。

キルガー：病院で働いている看護婦？

アニー：看護婦たちは、医師らに連れてこられた。私の元夫を含めた医師は、1999年または2000年にこの病院へやってきた。彼は看護婦も連れてきた。臓器狩りが始まったとき、看護婦たちは医師らに割り当てられた。これらの看護婦たちは、個人的な秘書とは違う。

2003年、衛生省政府は、臓器狩り手術に携わっていたたくさんの医師を、SARSで封印されていた地域へ送った。これらの医師は、そのような場所へ送られて、ここで死んでもいいと思われていることを認識した。つまり、政府は臓器狩りに関与した最初のグループに、ひっそりと死んでもらいたかったのだという意味だ。だから、彼らは北京のSARSが感染した地域へ送られた。

その時から、私の元夫はこれを行うことによって危険が伴うこと、いつでも殺され、共謀者として見殺しにされてしまうと悟ったのだ。その後、彼が止めようと思った時、誰かが彼を殺そうとした。

キルガー：病院の中で？

アニー：病院の外。

キルガー：我々に、もっと詳細を教えてほしい。

アニー：2003年末、私がそのことを知ってから彼が北京から帰ってきた。彼はすでに、通常的生活を送れなくなっていた。私がそのことを知った後、彼は私のアドバイスに従い、それを止める決心をした。彼は辞職表を提出した。それは、2004年の正月ごろだった。

2004年2月、辞職が決定すると、彼は病院での最後の月に仕事の残務処理を病院で行っていた。その間、私たちは脅迫電話を受け取った。彼は、「お前の身边に気をつけろ」と言われた。

ある日、私たちは午後仕事を終えた。2人の人間が私たちに向かって歩いてきて、彼を暗殺しようとした。あなたが女性なら、私の傷痕をみせるのだが。私が彼を押しつけて、代わりに私が刺されたから。男性はあまり直観に優れていないから、彼は全く気付かずに歩き続けていた。二人の人間がナイフを取り出して彼を刺そうとしたとき、私は彼を押しつけて、自分が代わりに刺されてしまった。たくさんの人がかけつけて、私は病院へ運ばれた。この二人は逃げ去った。

キルガー：どっち側か？（傷痕の場所）

アニー：右側。

キルガー：この二人が誰か知っているか？

アニー：最初、私は知らなかった。後で分かった。

キルガー：彼らは何者？

アニー：彼らは政府の医療システム当局から雇われた暴漢だと分かった。

キルガー：どうやって彼らのことが分かったのか？

アニー：私の家族は、政府の医療システムの一部で働いている。私の母は、医師だった。この件があつてから、友人の勧めで私は彼と離婚した。そうすれば、子どもたちと私が夫から離れるからだ。最終的に、私の子供と私はこの件に関してなにも関与していない。2003年、私たちは離婚した。2004年間近だった。

キルガー：何人くらいの人たちがまだ生きていたと思うか？

アニー：2004年に私が中国を後にした時、だいたい2,000人位の人々が残っていたと思う。しかし、私は具体的な数字を言うことはできなくなった。なぜなら中国はまだ法輪功学習者たちを逮捕しているし、人々が入ったり、出たりしているから。だから、数字を言うことはもうできない。

キルガー：2,000年には2,000人という数字は、どこから出たのか？

アニー：私の元夫が何件やったのか、そして他の医師らが何件やったのかによる。また、何人が他の病院へ送られたのか。よい医師らは、医療サークルの中でも繋がり強い。彼らは、医学学校のときにクラスメートだった。その数字は、関与していた少数の医師から推定した。私たちがプライベートで一緒のとき、彼らは全員で何人なのかを話し合った。その時、それらの医師は継続したくないと言っていた。彼らは、他の地区へ行くか、他の分野へ異動することを希望していた。だから、死亡者数の合計は、これら関与していた少数の医師から計算した。

キルガー：彼らは、何人くらいが殺されたと推定しているのか？

アニー：3,000～4,000人と推定していた。

キルガー：それは、医師全員の推定なのか？

アニー：いいえ。私たちが親しかった、3人の医師だ。

キルガー：その他に、何か言いたいことはあるか？

アニー：中国人でも、外国人でも、彼らは蘇家屯病院にそんなに多くの法輪功学習者が捕えられていると信じていない。彼らは、蘇家屯病院だけに注目している。そこには、地下設備があることを、誰も知らないからだ。私が言いたいのは、たとえ蘇家屯での件が終わったとしても、他の病院でこの問題は継続するだろう、ということだ。私は蘇家屯で働いていたから、蘇家屯のことをよく知っている。その他の病院や収容所は・・・調査したり、監督したりすれば、死者は減ると思う。

中国人の場合、一人が出てきても、その家族はまだ中国にいる。彼らは、表に出て真実を語ることを恐れている。彼らの家族が危険にさらされるのを恐れている。しかし、彼らが何も知らないという分けではな

い。

A: あなたの母親は、あなたが何をやっているか知っているのか？

アニー：はい。

A: 彼女は、まだ政府医療システムで働いているか？

アニー：いいえ。彼女は、だいぶ前に退職した。彼女は、もうすぐ70歳だ。

【付録3】

中国政府声明文への返答

デービッド・キルガー
デービッド・マタス
2007年7月7日

われわれが2006年7月6日「中国における法輪功学習者を対象とした臓器狩りの告発に関する調査報告書」と名づけた報告書を公表した後、中国政府はこの報告書への応答として声明文を発表した。この声明文はウェブサイト <http://www.chinaembassycanada.org>に掲載されている。この声明文に対してわれわれは次のように回答する。

1. 中国政府の声明文は、我々が報告書を発表した同日に公表された。中国政府のこの声明文は、我々の報告書を入手していないのに、これを否定した。この反応は軽率なものであると思う。このことは中国政府は何の調査も行わず本報告書に書かれている事柄が真実かどうか判断したことを意味している。

2. 中国政府の声明文は「法輪功は『蘇家屯強制収容所』の嘘を暴かれたあと、自らの困窮する立場から脱出するために、法輪功は中国での臓器移植を非難する作戦に変更した」という書き出しで始まっている。この言葉はいくつかの面で間違っている。まず、この声明文では我々は法輪功の報告書だといっているが、それは違う。我々は法輪功学習者ではない。我々はボランティアとしてこの報告書を作成したのであり、法輪功、あるいはほかの誰かが本報告書に対して我々に金銭を支払ったことは皆無である。我々の報告書は自らの判断を述べただけである。我々は法輪功またはほかの人からの支持によって調査を行い、そして結論を出したのではない。

3. 中国の声明が冒頭で言及した蘇家屯強制収容所に関する主張は、蘇家屯強制収容所の外科医の前妻が証言したものであるが、この人は法輪功学習者ではない。彼女は自分が言ったことを変えたり、修正したりすることはこれまでまったくない。デービッド・キルガーが彼女をインタビューした。インタビュー内容の一部は我々の報告書の付録2に記載されている。

4. 報告書でも書いたが、この女性はどうそをしておらず、我々は彼女の話は信用できると判断した。

5. 我々はこの証人のみによって、報告書の結論を出したわけではない。この証人の証言について我々は報告書にこう記している。

「臓器収奪に加担したといわれる医師の妻の証言は十分な信用性がある。その理由の一つは、その詳細な内容にある。しかしあまりにも詳細であるためその一つ一つを裏付けることは困難である。我々はその一つ一つのソースから得られた情報によって判断することは避けたい。それゆえこの証言のうちほかの証言とつき合わせる事が可能で矛盾しないものだけを取り上げることにした」

我々の報告書は単にこの証言から出したものではなく、むしろ蘇家屯病院に限定せず、もっと視野を広げてみた結果である。

6. そして中国の声明文は次のように言っている。

「彼らの目的は明らかに中国のイメージを汚すことである」。

我々は中国のイメージを汚すつもりはない。我々の唯一の関心事は、真実と人権の尊重である。

7. 中国の声明文は、その後続けて次のように言っている。

「中国は一貫して人体臓器の売買禁止、そしてドナー自身によって書かれた同意書の事前取得、同意書の有無にかかわらずドナーは最後に臓器の寄贈を拒否する権利があると明記した1999年のWHOが承認した指針を遵守している」。

その声明は事実によって嘘であることが裏付けられている。中国国際移植ネットワーク支援センターのウェブサイトでは、今年4月までは移植臓器の価格表を掲載していた。その価格表は4月に削除されたが、当時の文書がアーカイブとして保存されている。同センターのウェブサイトは <http://en.zoukiishoku.com>、また同センターの当時の文書を見るには、<http://archive.edoors.com/render.php?uri=http%3A%2F%2Fen.zoukiishoku.com%2Flist%2Fcost.htm+&x=16&y=11> を参照して頂きたい。また多くの人々について、中国での臓器移植のために金を支払ったことが検証できる。

8. 中国はドナーによって書かれた同意書を事前に得る必要があるという規定を一貫して遵守しているという声明も事実によって嘘であることが裏付けられている。処刑される囚人からの了承を得る例はほんの一部に過ぎないという、ヒューマン・ライツ・ウォッチの報告書がある。同団体は、このわずかなケースについてさえ、次のように書いている。

「中国では拘束中および監禁中の虐待環境によって、死刑を言い渡された時点から処刑が執行されるまでの間の『自由意志と本人意思による了承』という概念は荒唐無稽な話となる」（「中国における臓器売買と死刑執行」1994年8月）

9. 中国当局の声明文は引き続き、次のように言った。

「中国は医療上の安全と患者の健康を守るために、人体臓器移植に関して明確に売買を禁止し、そして臓器移植の一連の医学基準を導入する法規を公布した。この法規は、人体臓器移植手術を実施する資格を有する医療機関は省のレベルの健康部門に登録するように要求している。未登録の医療機関は臓器移植手術の実施を禁じられている。もし、政府に登録された機関が法規に違反したことが発見されれば、政府はこの登録を取り消し、または責任者に懲罰を与える」

我々は、これも事実によって嘘であることが裏付けられていると認識しており、そのことは我々の報告書にも書いてある。また我々は数日前に、この法規の施行日が7月1日であることに気づいた。これは、施行日以前に発生していることに関する我々の結論に対する応答にならない。さらに、中国においては法律の制定と法律の実施の間に巨大な格差がある。

10. その次に、中国政府は次のように述べている。

「法輪功のうわさには、潜在的な政治目的があることは明らかである」我々の結論はうわさに基づくもの

ではない。我々が達したすべての結論には出所があり、そしてそれぞれ検証できるものである。

1 1. 中国当局の声明文は、次のように言った。

「従って、数人のカナダ人によるうわさと虚偽の主張に基づきいわゆる『独立調査報告書』は無根拠で先入観にとらわれたものである。うわさはいつも不完全なものであり、千回繰り返しても決して真実にはならないと、我々は思っている。我々はカナダの人々が法輪功の虚偽にだまされることがないように、そしてもっと多くの人々に法輪功の邪教の本質を知ってもらいたいと願う。」

この結論は我々と法輪功への攻撃である。報告書への判断は、報告書自体に基づくべきである。報告書の作者を攻撃することは適切な応答ではない。

第二に、法輪功を「邪教」と呼ぶことは、法輪功に対して積み重ねている中傷を裏付けている。中国においてこの類の誹謗こそ、法輪功を非人格化、非人間化し、そして彼らの基本的人権を剥奪することを可能とするのである。

無実の市民団体を「邪教」と呼ぶことは、憎悪の煽動の一種であり、これはカナダにおいては前例のないことである。中国はカナダにおいて、このような煽動活動に従事するために、彼らの外交身分を濫用しているのである。

更なる詳しい情報については以下まで連絡を取っていただきたい。

デービッド・キルガー	1-(613) 747-7854
デービッド・マタス	1-(204) 944-1831